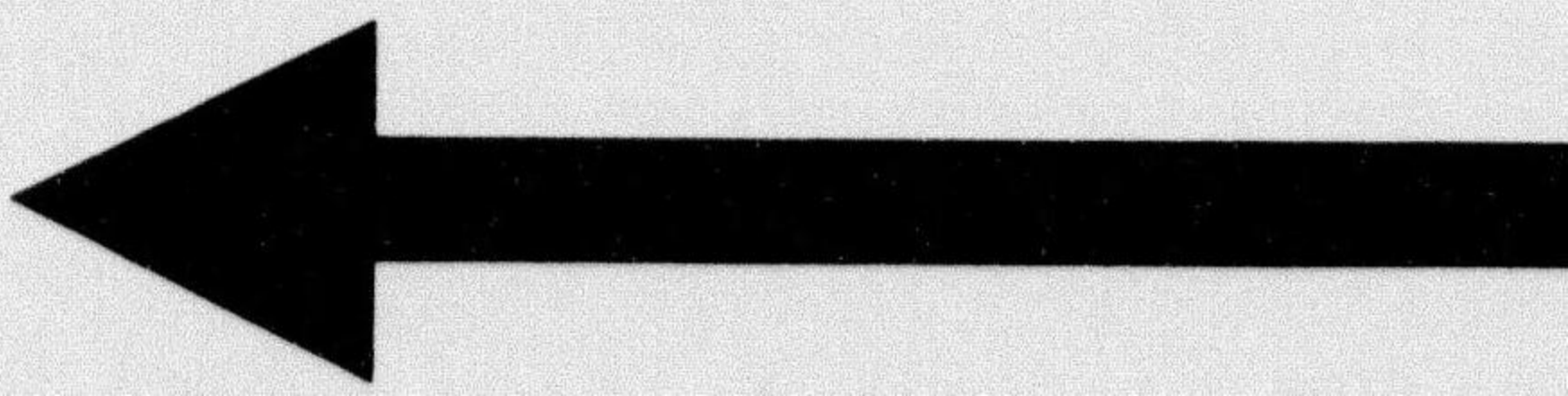
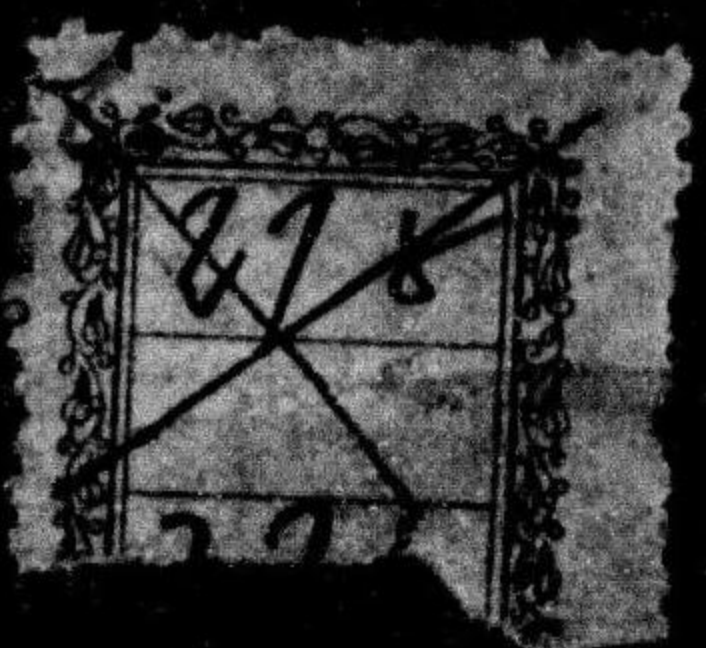
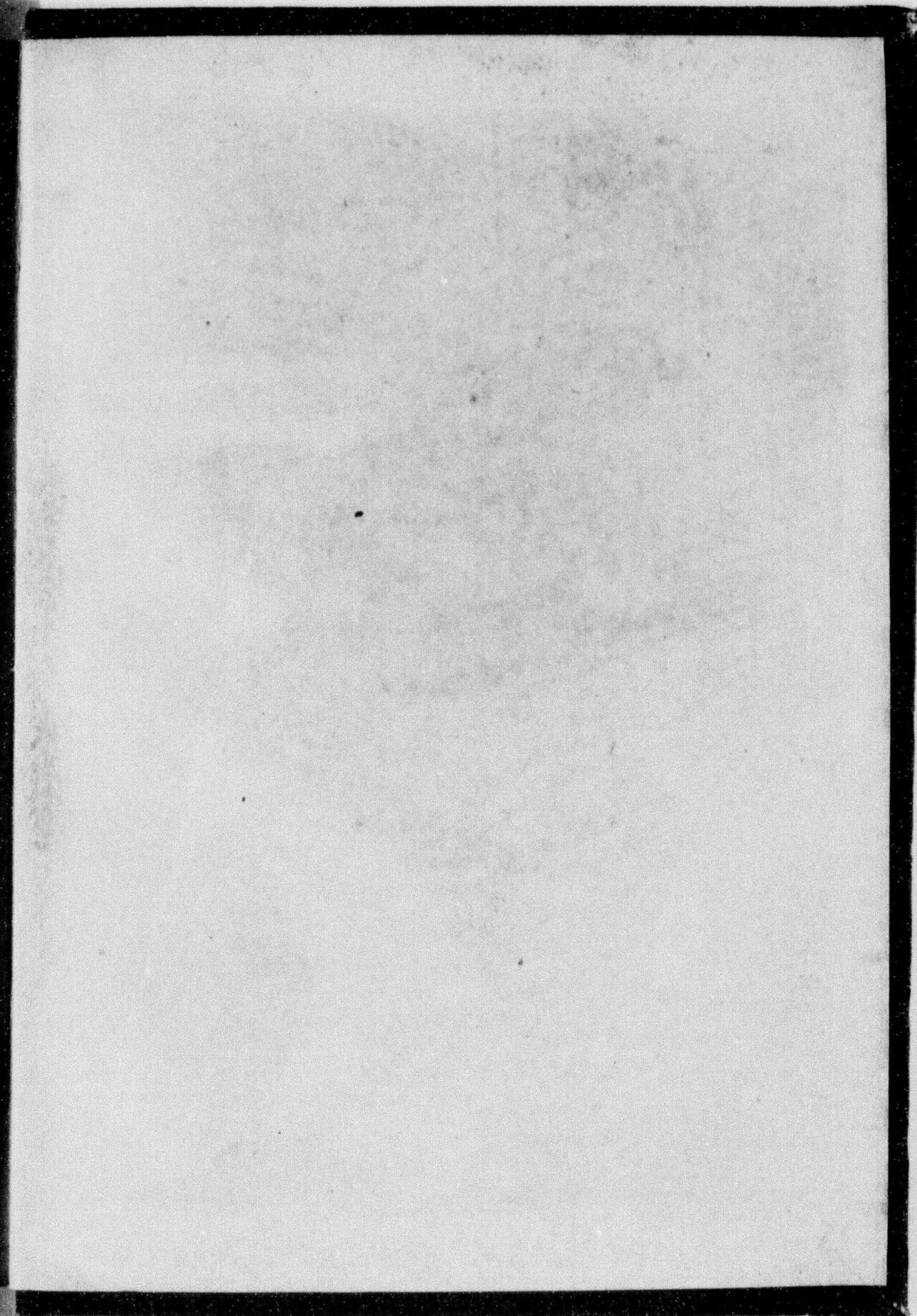


始



1 2 3 4 5 6 7 8 9 <sup>16</sup>/<sub>50</sub>m 1 2 3 4 5





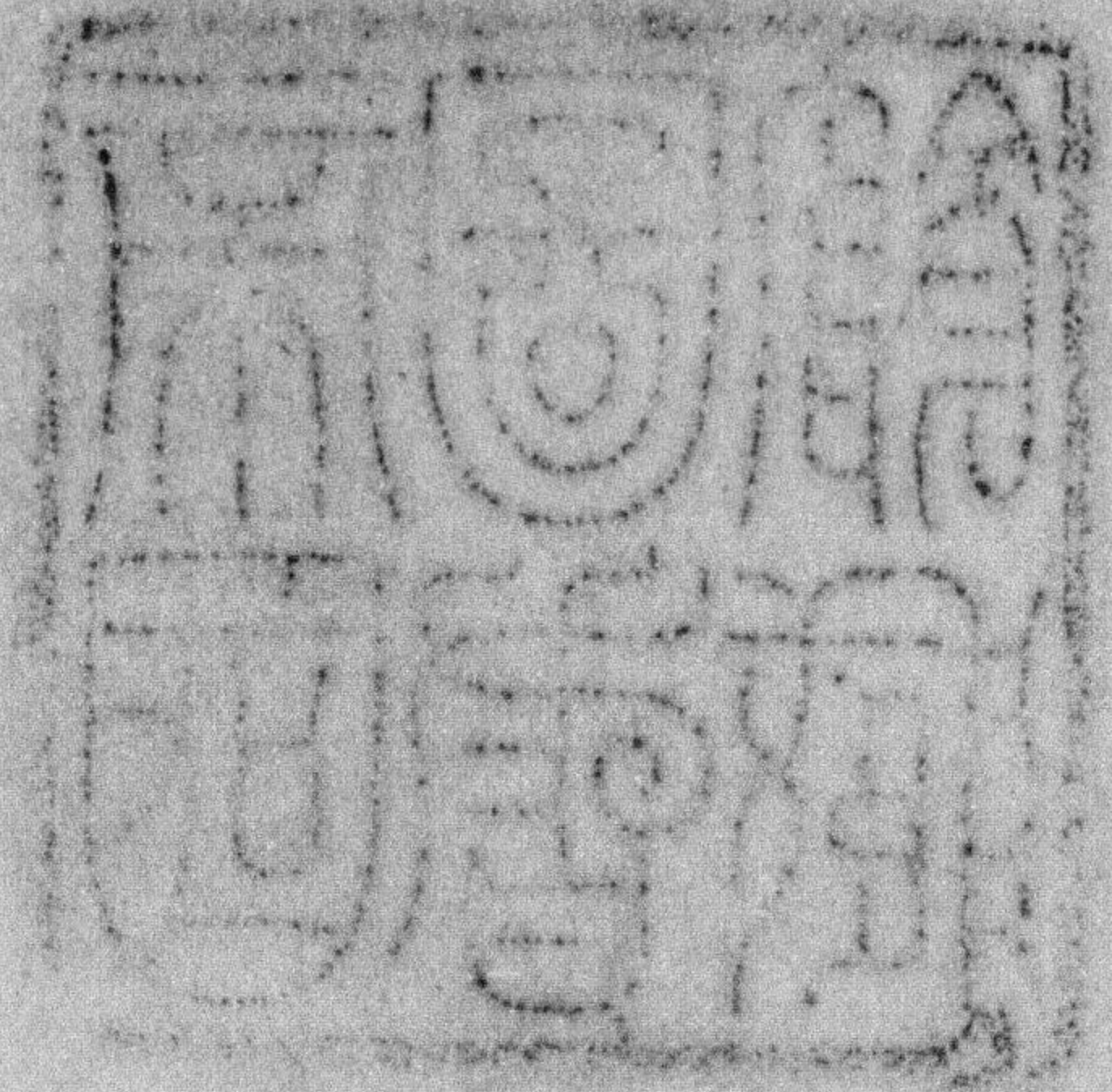
特 100  
21



甲府地方裁判所書記  
福住庸四郎編

執行要覽

正 矣  
4. 8. 16  
内交





凡例

- 一 本書ハ携帶ニ便センカ爲メ袖珍形ト爲シタルニ付浩瀚ナル法令ニ關シテハ其全文ヲ掲クルコト能ハサルヲ以テ直接緊要ト認メタル條文ニ限り抄録スルコトト爲セリ
- 一 本書ノ法令ハ大正四年五月現行ノモノニシテ司法省ノ回答及ヒ法曹會ノ決議等モ亦同月マテノ分ヲ蒐集セシモノナリ
- 一 司法省ノ通牒回答及ヒ法曹會ノ決議等ハ其年月日ノ記載ニ代ヘ之ヲ掲載シタル法曹記事ノ號數ヲ註記スルコトト爲セリ
- 一 本書ハ公餘忽卒ノ編著ニシテ且ツ淺學寡聞ナレハ猶遺漏錯誤ノ多キヲ免レサルモ當務者ト其利便ヲ願タントスル微衷ヲ掬サルルコトヲ得ハ著者ノ幸甚シ



- 外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法(抄) 一九
- 司法省官制(抄) 一
- 司法大臣官房分課規程(抄) 一
- 裁判所及檢事局事務章程(抄) 一
- 裁判所及檢事局職員ノ進退ニ關スル監督官權限規程 一
- 執達吏規則 一
- 附 解疑 二
- 執達吏手數料規則 二
- 附 解疑 三
- 附 解疑 三
- 執達吏登用規則 三
- 附 解疑 三
- 執達吏ニ交付スルキ證票調製方 五
- 附章解疑 五
- 執達吏懲戒令 六
- 執達吏職務細則 六
- 附 第一章 總則 六

第二章 職 務

- 第一節 送達 七
- 第二節 民事事件ニ付テノ強制執行 八
- 第三節 刑事事件ノ執行其他ノ事務ニ關スル執行 五
- 第四節 行政裁判所其他特別裁判所ヨリ囑託ニ依ル強制執行 五
- 第五節 動産不動産ノ任意競賣 六
- 第六節 辨濟提供 六
- 第七節 破産財團ニ關スル競賣 六
- 第八節 拒絕證書ノ作成 六
- 第九節 供託ニ付テノ認證 六
- 第十節 手數料 六
- 附章解疑 六
- 執達吏用書式 七
- 執達吏事務統計年表様式 二〇
- 同上調製方質疑回答ノ件 二〇
- 他ノ官ヨリ執達吏ニ任用者退官賜金恩給年數ノ件 二四

目次

四

- 執達吏手数料規則第十六條ノ三ノ手数料ヲ受タル場合及ヒ宿泊ヲ要スル場合届出ノ件 二二四
- 執達吏役場位置ノ指定又ハ出張所ノ設置ヲ命シタル場合報告ノ件 二二六
- 執達吏ノ執行調書及附屬書類用紙ノ件 二二六
- 執達吏役場標札ノ件 二二七
- 臨時執達吏認可ノ件 二二七
- 金錢有價證券ヲ供託シタル執達吏死亡等ニヨリ他ノ執達吏之レカ請求ヲ爲ス場合ニ於ケル通知ノ件 二二七
- 執達吏立替金及補助費確定書式 二二八
- 民事訴訟法(抄) 二二八
- 第一編 總則 則重不重重ノ注意 二二九
- 第一章 裁判所 裁判所ノ土地ノ管轄ノ事 二二九
- 第二章 當事者 共同訴訟人 二二九
- 第一節 訴訟能力 二二九
- 第二節 共同訴訟人 二二七

- 第三節 第三者ノ訴訟參加 二二八
- 第四節 訴訟代理人及補佐人 二三〇
- 第五節 訴訟費用 二三二
- 附 解 疑 二三九
- 第七節 訴訟上ノ救助 二四一
- 第三章 訴訟手續 二四四
- 第一節 口頭辯論及準備書面 二四四
- 第二節 送達 二四四
- 附 解 疑 二四四
- 第三節 期日及期間 二四八
- 第五節 訴訟手續ノ中斷及中止 二五九
- 第二編 第一審ノ訴訟手續 二五九
- 第一章 地方裁判所ノ訴訟手續 二五九
- 第一節 判決前ノ訴訟手續 二五九
- 第二節 判決 二六一
- 第三節 缺席判決 二六三

目次

五

第六節 人證	二六四
第二章 區裁判所ノ訴訟手續	二六六
第一節 通常ノ訴訟手續	二六六
第二節 督促手續ノ訴訟手續	二六七
第三編 上一訴ノ訴訟手續	二六九
第一章 控訴手續ノ中級及中上	二六九
第二章 上訴告ノ期間	二七〇
第三章 抗告	二七一
第四編 再審	二七三
第五編 證書訴訟及ヒ爲替訴訟	二七四
第六編 強制執行	二七四
第一章 總則	二七四
附 解 疑	三〇九
第二章 金錢ノ債券ニ付テノ強制執行	三二六
第一節 動産ニ對スル強制執行	三二六
第一欸 通常則	三一六

附 解 疑	三一八
第二欸 有体動産ニ對スル強制執行	三一八
附 解 疑	三二〇
第三欸 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行	三三九
附 解 疑	三五二
第四欸 配當手續	三五七
附 解 疑	三六三
第二節 不動産ニ對スル強制執行	三六五
第一欸 通則	三六五
附 解 疑	三六六
第二欸 強制競賣	三六六
附 解 疑	三九八
第三欸 強制管理	三九九
附 解 疑	四〇四
第三節 船舶ニ對スル強制執行	四〇四
附 解 疑	四〇九
第三章 金錢ノ支拂テ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行	四一〇



目次

第三編 附 解疑	四一三
第四章 假差押及七假處分	四一五
第三附 解疑	四二五
第八編 裁判手續	四三二
○皇室典範(抄)	四三四
○同增補(抄)	四三五
○法例(抄)	四三七
○公式令(抄)	四三七
○民法(抄)	四三七
第一編 總則	四三七
第一章 人	四三七
第二節 能力	四三七
第三節 住所	四三七
第二章 法人	四三九
第一節 法人ノ設立	四四〇
第三節 法人ノ解散	四四一

目次

第三章 物	四四二
第四章 法律行為	四四三
第二節 意思表示	四四三
第三節 代理	四四四
第四節 無效及七取消	四四七
第五節 條件及七期限	四四七
第五章 期間	四四八
第六章 時效	四四八
第二節 總則	四五〇
第三節 消滅時效	四五〇
第二編 物權	四五二
第一章 總則	四五四
第二章 占有權	四五四
第一節 占有權ノ取得	四五五
第三章 所有權	四五五
第三節 共有	四五六

目次

第四章 土地權	四五六
第五章 永小作權	四五七
第六章 地役權	四五八
第七章 留置權	四五八
第八章 先取特權	四五九
第九章 質權	四六九
第十章 抵當權	四七三
第二節 抵當權ノ效力	四七三
第三編 債權	四七六
第一章 總則	四七六
第一節 債權ノ目的	四七六
第二節 債權ノ效力	四七八
第三節 多數當事者ノ債權	四八一
第四節 債權ノ讓渡	四八八
第五節 債權ノ消滅	四八九
第二章 契約	四九三

第一節 合總會則	四九三
第三節 買賣	四九六
第五節 消費貸借	四九九
第七節 質貸借	五〇〇
第八節 雇傭傭人	五〇〇
第九節 請託人負	五〇二
第十節 委任	五〇三
第十一節 寄託	五〇六
第十二節 組合	五〇六
第三章 事務管理	五〇七
第五章 不法行為	五〇七
第四編 親族	五〇八
第一章 總則	五〇八
第二章 戶主及七家族	五〇八
第三章 婚姻	五一〇
第七章 親族會	五一〇

目次

第五編 相続

第一章 家督相続

第三章 相続ノ承認及ト拋棄

第四章 財産ノ分離

第六編 遺言

第七章 遺留分

○民法施行法(抄)

○商 第十法(抄)

第一編 總則

第一章 民法 總則

第二章 商 總則

第六章 商業 商業使用人

第七章 代理 代理商

第二編 會社

第一章 總則

第二章 合名會社

五	一〇
五	一一
五	一二
五	一六
五	一八
五	二〇
五	二一
五	二〇
五	三〇
五	三〇
五	三一
五	三一
五	三三
五	三三
五	三三

第四章 株式會社

第三編 商行爲

第一章 總則

第二章 買賣

第四章 匿名組合

第五章 仲立營業

第六章 問屋營業

第七章 運送取扱營業

第八章 運送營業

第九章 寄託

第十章 保險

第四編 手形

第一章 總則

第二章 爲替手形

第九節 拒絕証書

第三章 約束手形

目次

五	三六
五	四〇
五	四〇
五	四三
五	四五
五	四六
五	四七
五	四八
五	四八
五	四八
五	五一
五	五一
五	五二
五	五四
五	五四
五	五五
五	五六
五	七一
五	七四



目次

- 永代借地權ニ關スル法律(抄) 七四二
- 國籍喪失者ノ權利ニ關スル件 七四三
- 戶籍法(抄) 七四四
- 年齡計算方ノ件 七四五
- 司法ニ關スル法律ヲ樺太ニ施行スルノ件 七四八
- 外國人署名捺印及無資力證明ニ關スル法律 七四九
- 刑法(抄) 七五〇
- 同施行法(抄) 七六一
- 警察犯處罰令(抄) 七六二
- 刑事訴訟法(抄) 七六三
- 刑事署式手續法(抄) 七六四
- 陸海軍法會議私訴裁判強制執行法 七六五
- 監獄法(抄) 七六六
- 監獄法施行規則(抄) 七六七
- 行政裁判法(抄) 七七八

七四二  
七四三  
七四四  
七四五  
七四八  
七四九  
七五〇  
七六一  
七六二  
七六三  
七六四  
七六五  
七六六  
七六七  
七七八

- 同裁判所令(抄) 七七八
- 捕獲審檢令(抄) 七七九
- 國稅徵收法(抄) 七八〇
- 同施行規則(抄) 七八一
- 年始年末休暇及祭祝日ノ件 七八二
- 執達吏監督手續(以下東京控訴院管内) 七八四
- 執達吏監督手續中報告事項ノ件 八〇〇
- 執達吏職務簿用紙調製及記載例 八〇〇
- 附 解 疑 八〇四
- 執達吏職務簿様式ノ件 八〇四
- 送達證書様式 八〇五
- 附 解 疑 八〇七
- 表記ニ宿泊料記載ノ件 八〇八

目次

七七八  
七七九  
七八〇  
七八一  
七八二  
七八四  
八〇〇  
八〇〇  
八〇四  
八〇四  
八〇五  
八〇七  
八〇八



第五十七條 司法權ハ天皇ハ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之

ヲ行フニ必要ナルハ裁判所ノ官吏ハ法律ニ依リ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ命ジ

第百七章 補入ノ則ニ對シテハ、モイヤシ

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用弗ク其拘

ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵守ノ效力

ヲ有ス日本亞細亞ハ裁判官ハ裁判官ノ職任ヲ受

◎裁判所構成法 (明治二十三年二月十日法律第六號)

第二編 第一章 裁判所及檢事局

第一章 裁判所及檢事局

第九條 區裁判所ニ執達吏ヲ置ク執達吏ハ裁判所ヨリ發ス

ル文書ヲ送達シ及裁判所ノ裁判ヲ執行ス

前項ノ外執達吏ハ此ノ法律又ハ他ノ法律ニ定メタル特別

ノ職務ヲ行フ

第二章 裁判所及檢事局ノ官吏

第五章 執達吏

第九十四條 各區裁判所ニ第九條ニ從ヒ相應ナル員數ノ執

達吏ヲ置ク

第九十五條 執達吏ハ司法大臣之ヲ任シ及之ヲ補ク司法大

臣ハ地方裁判所長ニ其ノ管轄區域内ノ裁判所ノ執達吏ヲ

任シ及補スルノ權ヲ委任スルコトヲ得

執達吏ニ任セラル、ニ必要ナル資格並ニ試験ニ關ル規則

司法大臣之ヲ定ム

第九十六條 執達吏ハ手數料ヲ受ク其ノ手數料一定ノ額ニ

達セサルトキ補助金ヲ受ク

第九十七條 執達吏ハ其ノ所屬區裁判所ヲ管轄スル地方裁

裁判所構成法

裁判所管轄區域内ノ何レノ場所ニ於テモ其ノ職務ヲ行フ  
 第九十八條 裁判所ヨリ發スル文書ニシテ送達ヲ要スルモ  
 送達人ハ執達吏ヲ以テ之ヲ送達ス但シ書記ヨリ直接ニ若ハ郵  
 便ヲ以テ送達スルコトヲ法律ノ許ス場合ハ此ノ限ニ在ラ  
 ス  
 第九十九條 執達吏ハ其ノ職務ヲ適實ニ行フ爲保証金ヲ出  
 スコトヲ要ス  
 第十條 執達吏ハ其ノ職務ヲ適實ニ行フ爲保証金ヲ出  
 定

第九十九條 執達吏ハ其ノ職務ヲ適實ニ行フ爲保証金ヲ出  
 スコトヲ要ス  
 第十條 執達吏ハ其ノ職務ヲ適實ニ行フ爲保証金ヲ出  
 定

第一百條 執達吏ハ其ノ所屬裁判所ノ上官ノ命ヲ受テ  
 記及其ノ裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ノ上官ノ命ヲ受ケ

後ノ書記及其ノ書記ノ上官ノ命令ニ從フ  
 第六條 第六條 第六條 第六條 第六條

第一百二條 庭丁ハ開廷ニ出頭セシメ及司法大臣ノ發シタル  
 規則ノ規則中ニ定メタル事務ヲ取扱ハシム

區裁判所ハ執達吏ヲ用非ルコト能ハサルトキハ其ノ裁判  
 所所在地ニ於テ書類ヲ送達スル爲庭丁ヲ用非ルコトヲ得

第三編 司法事務ノ取扱  
 第六章 法律上ノ共助

第一百三十三條 裁判所書記課モ亦其ノ權内ノ事件又ハ其ノ  
 配下ノ執達吏ノ權内ノ事件ニ付互ニ法律上ノ補助ヲ爲ス

第一百三十四條 編 司法行政ノ職務及監督權



第一百三十五條 司法行政監督權ノ施行ハ左ノ規程ニ依ル

第一 司法大臣ハ各裁判所及各検事局ヲ監督ス

第二 大審院長ハ大審院ヲ監督ス

第三 控訴院長ハ其ノ控訴院及其ノ管轄区域内ノ下級裁判所ヲ監督ス

第四 地方裁判所長ハ其ノ裁判所若ハ其ノ支部及其ノ管轄区域内ノ區裁判所ヲ監督ス

第五 區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ其ノ裁判所

第六 檢事總長ハ其ノ檢事局及下級檢事局ヲ監督ス

第七 檢事局長ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル控

第八 檢事正ハ其ノ檢事局及其ノ局ノ附置セラレタル地方

裁判所管轄區域内ノ檢事局ヲ監督ス

第三十六條 前條ニ掲ケタル監督權ハ左ノ事項ヲ包含ス

第一 官吏不適當又ハ不充分ニ取扱ヒタル事務ニ付其ノ

注意ヲ促シ並ニ適當ニ其ノ事務ヲ取扱フコトヲ之ヲ訓

令スル事

第二 官吏ノ職務上下否トニ拘ラス其ノ地位ニ不相應ナ

ル行狀ニ付之ニ諭告スル事

第三 但シ此ノ諭告ヲ爲ス前其ノ官吏ヲシテ辯明ヲ爲スコト

ヲ得セシムヘシ

◎司法事務共助法

(明治四十四年三月三十日  
法律第五十二號)

第一條 内地及樺太、朝鮮、臺灣、關東州又ハ帝國ニ預事  
裁判權ヲ行フ地域ニ於テ司法事務ヲ取扱フ官廳間ノ司法

司法事務共助法

事務共助ハ本法ニ依ル  
第三條 司法事務ヲ取扱フ官廳ハ民事及刑事ニ關シ相互ニ

一 左ノ事項ヲ囑託スルコトヲ得  
訴訟書類ノ送達

二 證據調

三 令狀ノ發付及執行

四 犯罪ノ捜査

第三條 民事ノ判決ハ其ノ執行力アル正本ニ基キ司法事務

ヲ取扱フ他ノ官廳ノ管轄區域内ニ於テ其ノ強制執行ヲ爲

スルトヲ得但シ執行地ノ法令ニ依リ許スヘカラサル請求

ニ付テ此ノ限ニアラス

前項ノ規定ハ仮差押又ハ仮處分ノ命令又執行ニ之ヲ準用

ス茲中刑罰執行ニ關シハ別當ニ之ヲ定ム

◎外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法 (明治三十八年三月十三日法律第六十三號)

第一條 裁判所ハ外國裁判所ノ囑託ニ因リ民事及刑事ノ訴

訟事件ニ關スル書類ノ送達及證據調ニ付法律上ノ補助ヲ

爲ス

法律上ノ補助ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ヲ管轄スル區

裁判所ニ於テ之ヲ爲ス

第一條ノ二 法律上ノ補助ハ左ノ條件ヲ具備スル場合ニ於

テ之ヲ爲ス (四十五年法律第七號ヲ以テ追加)

一 囑託カ外交機關ヲ經由シタルモノナルコト

二 書類送達ノ囑託ハ送達ヲ受クヘキ者並其ノ國籍及住

所又ハ居所ヲ記載シタル書面ヲ以テ爲シタルモノ

三 裁判所ノ囑託ハ送達ノ手續ニ關シテ必要ナル書類並其ノ送達ノ時期

- 三 證據調ノ囑託ハ訴訟事件ノ當事者、證據方法ノ種類、取調ヲ受クヘキ者ノ氏名國籍及住所又ハ居所並取調ヲ要スル事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ爲シ仍刑事事件付テハ其ノ事件ノ要旨ヲ記載シタル書面ヲ添附シタルモノナルコト
- 四 新日本語ヲ以テ作成セサル囑託書及其ノ關係書類ニハ舊日本語ノ翻譯文ヲ添附スルコト
- 五 囑託裁判所所屬國カ受託事項施行ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ保證シタルコト
- 六 囑託裁判所所屬國カ同一又ハ類似ノ事項ニ付日本ノ裁判所ノ囑託ニ因リ法律上ノ補助ヲ爲シ得ル旨ノ保證ヲ爲シタルコト
- 第二條 受託事項カ他ノ裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ受託

裁判所ハ囑託ヲ管轄裁判所ニ移送スヘシ又時或東ノ囑託第三條 受託事項ハ日本ノ法律ニ依リ之ヲ施行スル旨第四條 (四十五年法律第七號ヲ以テ削除) スル旨

◎司法省官制

(明治二十六年十月勅令第四百四十三號)

- 第三條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノ、外裁判所附屬吏員及辯護士ノ身分ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第四條 司法省ニ左ノ二局ヲ置ク
  - 法務局
  - 監獄局
- 第五條 法務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 裁判所ノ設立、廢止及管轄區域ニ關スル事項
  - 二 民事刑事及非訟事件ニ關スル事項
  - 三 裁判及檢察ノ事務ニ關スル事項

四 恩赦及刑ノ執行ニ關スル事項

五 犯罪人引渡ニ關スル事項

六 片籍ニ關スル事項

第七 公證ニ關スル事項

式辯護士ニ關スル事項

◎司法大臣官房分課規程 (大正二年六月十三日制定)

第三條 大臣官房ニ秘書課、職員課、會計課ヲ置ク

第三條 職員課ニ於テハ左ノ事務ヲ司ル

一 官吏ノ進退身分ニ關スル事項

二 裁判所附屬吏員及辯護士ノ身分ニ關スル事項

三 裁判所附屬吏員及辯護士ノ身分ニ關スル事項

四 看守長登用試験並辯護士公證人及執達吏ノ試験

添削ニ關スル事項

四 官吏ノ出張ニ關スル事項

◎裁判所及檢事局事務章程 (大正二年六月廿二日 職制第五百一號)

第二十一條 第一章 通則

第八條 裁判所及檢事局ノ職員ニシテ疾病忌服又ハ其他ノ

事故ニ因リテ缺勤スルトキハ各其所屬廳長ノ届書ヲ差出ス

ルヘシ但疾病日數七日以上ニ涉ルハ醫案ヲ添ヘテ更ニ

届出ヘシ

第十條 裁判執行、司法警察、物品、金錢ノ保管及費用徴

收等ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

◎裁判所及檢事局職員ノ進退ニ關スル監督官

權限規程 (大正二年六月十六日 職制第六百十五號)

分課規程 事務章程

第十八條 地方裁判所長ハ其ノ廳並管内區裁判所ノ判事、  
試補及書記ニ對シ例規ノ賜暇ヲ許否シ及除服出仕ヲ命ス  
ルコトヲ得

檢事正其ノ局並管内區裁判所檢事局ノ檢事、試補及書  
記ニ於ケル亦同シ

第二十條 判任官以下ニシテ判事檢事登用試驗其ノ他ノ試  
驗ヲ受ケントスル者アルトキハ各直近監督官ニ於テ之ヲ  
許否スルコトヲ得

第二十一條 第九條乃至第十二條及第十九條ノ場合並判任  
官司法部外へ轉任シ又ハ高等官若ハ判任官死亡シタル場  
合ハ其ノ都度速ニ報告スヘシ但シ任用ニ付テハ履歷書、  
免官ニ付テハ辭表寫(附屬書類アルトキハ其ノ寫トモ)ヲ  
添附スヘシ

◎執達吏規則

(明治二十三年七月二十五日  
法律第五十一號)

第一條 執達吏ハ區裁判所ニ屬シ法律ニ從ヒ訴訟ニ關スル  
書類ヲ送達シ及裁判ヲ執行スルモノトス

第二條 執達吏ハ當事者ノ委任ニ依リ左ノ事務ヲ取扱フコ  
トヲ得

第一ニ告知及催告ヲ爲ス  
第二ニ動産不動産ノ任意競賣ヲ爲スコト  
第三ニ拒證書ヲ作ルコト

第三條 執達吏ハ法律規則ニ定メタル職務ノ外裁判所及檢  
事局ノ命令ニ依リ其職務ニ應スル事務殊ニ左ノ事務ヲ取  
扱フノ義務アリ

第三 書類物品ノ送付ヲ爲スコト  
執達吏規則

第三 罰金料料過料ヲ徵收シ及沒收物品ヲ取上ケ若クハ賣却スルコト

第三 令狀ノ執行ヲ爲スコト  
第四條 執達吏ハ所屬區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ノ監督ヲ受ク

他ノ判事又ハ檢事ニシテ職務上事務ヲ命シタルトキハ其事務ニ限リ執達吏ニ對シ監督權ヲ有ス

第五條 執達吏ハ所屬區裁判所ノ管轄區域内ニ於テ地方裁判所ノ指定シタル地ニ役場ヲ設クヘシ  
三十號ヲ以テ改正

第五條ノ二 區裁判所又ハ其出張所ノ所在地ニ執達吏ナキ場合ニ於テハ地方裁判所長ハ其管轄内ノ執達吏ニ役場ノ出張所ノ設置ヲ命シ又ハ裁判所書記ヲシテ執達吏ノ職務

ヲ行ハシムルコトヲ得(同上)又前計人イニモ去我ニ出ハ

裁判所書記又執達吏ノ職務ヲ行ハ場合ニ於テ若ク自己ノ責任ヲ以テ第十二條ニ掲タル者其他適當ト認ムル者ニ臨時其職務ノ執行ヲ委任スルコトヲ得

第六條 執達吏ハ其役場ノ所在地ニ住居ヲ定ムヘシ(同上)第七條 一區裁判所ニ數名ノ執達吏アルトキハ裁判所及檢

事局ノ命令ニ依ル事務ト裁判所書記ヲ經テ委任スヘキ事務トヲ各執達吏ニ分配スヘシ此分配ハ成ルヘク土地ノ區域ニ從フヘシ

事務分配ハ毎司法年度ノ終ニ於テ區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事前以テ之ヲ定ム

執達吏ノ爲シタル事務ハ事務分配上其事務他ノ執達吏ニ  
屬シタルトノ事實ノミニ因リ其效力ヲ失フコトナシ

第八條 執達吏左ノ場合ニ於テ其職務ノ施行ヲ除斥

セラレヘシ

第一、自己又ハ其婦カ當事者若クハ被害者タルトキ又ハ

當事者ノ一方若クハ雙方又ハ被害者ト共同權利者共同

義務者若クハ償還義務者タルノ關係ヲ有スルトキ

第二、自己又ハ其婦カ當事者ノ一方若クハ雙方又ハ被害

者又ハ其配偶者ト親族ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ヲ

解除シタルトキト雖亦同

第三、自己カ同一ノ事件ニ付證人若クハ鑑定人ト爲リテ

其訊問ヲ受クルトキ又ハ法律上代理人ト爲ルノ權利ヲ有

スルトキ若クハ之ヲ有シタルトキ

第九條 執達吏ハ民事訴訟ニ付テ其婦又ハ自己若クハ其婦

ト親族ト爲ルニシテ訴訟代理人及補佐人トシテ法廷ニ出ル

コトヲ得但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除ニ付テハ其職務ヲ執行

スルコトヲ得

第十條 執達吏ハ其職務ヲ行フヘキ命令若クハ委任ヲ受ク

ルトキハ正當ノ理由ヲ示シテ之ヲ拒ムコトヲ得

第十一條 執達吏ハ特別ノ命令若クハ委任ヲ受ケ

外自己ノ責任ヲ以テ左ニ掲グル者ニ臨時其職務ヲ執行

ヲ委任スルコトヲ得

第一、執達吏ノ登用試験ニ及第シタル者ノ一人ハ民事

第二、執達吏ノ職務修習者ニシテ三箇月以上其職務ヲ修

習シタル者

第三、裁判所書記ノ登用試験ニ及第シタル者ノ一人ニ於テ其

第四、區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ニ於テ臨時

第十、執達吏ノ職務ヲ行フニ適當ト認めタル者

第十二條 執達吏正當ノ理由アリテ其職務執行フコトヲ得  
タルトキ又外之ヲ委任スルコトヲ得  
然レモ其旨ヲ區裁判所ノ一人ノ判事若  
クハ監督判事ニ申立ツヘシ

委任ヲ爲シタル本人ニ通知スルコト能ハズルハ又ハ急  
速ノ處分ヲ要スル時其旨ヲ區裁判所ノ一人ノ判事若  
クハ監督判事ニ申立ツヘシ

第十三條 前條ノ場合其他執達吏差支アリテ其職務執行  
ノ一人ノ判事若クハ監督判事ニ申立ツヘシ又ハ職權ヲ以  
テ第十一條ニ掲グル者ニ執達吏ノ職務ヲ行ハシムルコト

第十四條 執達吏又ハ臨時職務執行ノ委任ヲ受ケタル者其  
職務ノ執行ヲ爲ス場合ニ於テハ區裁判所メ交付シテ其  
職務ヲ得ル時其旨ヲ區裁判所ニ申立ツヘシ

票ヲ携帶スヘシ(大正二年法律第二十號ヲ以テ改正)

第十五條 執達吏ハ裁判所書記官經テ其職務執行ノ委任  
ヲ受ケタル職務ヲ行フニ付テハ定規ノ手数料ヲ受ケ及立替

金又辨濟ヲ受ケハ定規ノ手数料ヲ増減シ又ハ手数料及立替  
金以外ノ定規ノ手数料ヲ受ケルコトヲ得

第十六條 執達吏第三條ニ掲グル職務執行ノ立替  
金又外手数料ヲ受ケルコトヲ得ス但罰金、科料、過料、追  
徴金及公訴ニ關スル訴訟費用ヲ裁判ノ執行ニ付テハ前條

第十七條 執達吏第十一條ノ場合ニ於テ臨時職務執行ノ委  
任ヲ爲シタルトキハ其委任ヲ受ケタル者ニ報酬並ニ手  
續料十分之三以上ヲ支給スヘシ



第十七條ノ二第五條ノ二第二項ノ場合ニ於テ臨時職務執行ノ委任ヲ受ケタル者ニハ執達吏ノ受テハ着手數料ノ十分ノ七以上ヲ支給ス(大正二年法律第二十號ヲ以テ追加)

第十八條ノ第十三條ノ場合ニ於テ臨時執達吏ノ職務ヲ行ヒタル者ハ其職務ニ付定メタル着手數料ヲ受ケ及立替金ノ辨濟ヲ受ク

第十九條 執達吏一年間ニ收入セシ着手數料百八拾圓ニ充テ

第二十條 執達吏死亡シタルトキ又ハ停職免職若クハ勾留セラレタルトキハ區裁判所ノ一人ノ判事若クハ監督判事ハ左ノ處分ヲ爲ス

第二十一條 官印帳簿其他職務ニ關スル書類ヲ區裁判所ニ差

第二十二條 執達吏職務上保管シタル物品及書類ノ保全ニ必要ノ手續ヲ爲スコト

第二十一條 執達吏ハ官吏恩給法ニ照シ恩給ヲ受ク其恩給年額ハ第十九條ニ定メタル金額ヲ俸給額ト看做シテ算定ス

第二十二條 執達吏ハ此規則ニ依ルノ外總テ一般官吏ノ例ニ依ル

附則 (大正二年法律第二十號ヲ以テ削ル)

一家資分散者ニ對シ職權ヲ以テ爲ス宣告書ノ送達ハ執達吏ノ義務トシテ取扱ヒ手數料規則第二十一條ニ依ルヘキモノトス(四號回答)

一區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事カ適當ト認メタルトキハ其區裁判所ノ雇員ト雖モ臨時執達吏ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得(九號決議)

- 一 執達吏ノ在ラサル區裁判所ノ書記ハ當然執達吏ノ職務ヲ兼テ行フ可キモノトス(一六號決議)
- 一 執達吏職務臨時執行ノ受任者ニハ書類送達等ノ旅費金ハ其全部ヲ支給スヘキモノトス(一五號決議)
- 一 執達吏モ官吏ナレハ其代理者モ亦官吏ト同一ノ資格ヲ有ス(二八號判例)
- 一 執達吏ハ代理者ヲ同行シテ補助ヲ爲サシムルコトヲ得(一二號回答)
- 一 執達吏ハ他ノ區裁判所ノ管轄内ニ役場ヲ移スコトヲ得ス(一一七號回答)
- 一 甲裁判所ヲ乙裁判所ニ於テ代理スル場合執達吏ニ屬スル事務モ乙代理區裁判所執達吏ニ於テ取扱フヘキモノトス(一一九號回答)
- 一 執達吏五疾病其他ノ事由ニ因リ自ラ職務ヲ行フコト能ハサルモ代理者ヲ指揮監督スルコトヲ得ル場合ニ於テハ執達吏規則第十一條四號ニ依リ區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事ノ認可ヲ受ケタル者ニ臨時其職務ノ執行ヲ委任スルコトヲ得但し其認可ハ事件毎ニ之ヲ受クルコトヲ要セス(一一九號回答)
- 一 執達吏欠缺者ノ職務ヲ他ノ執達吏ヲシテ執行セシムルハ一事件ニシテ前後執達吏ヲ異ニスル場合ニ於テハ書類及ヒ保管金ハ後ノ執達吏ニ於テ其引繼

- 一 受ケ整理及ヒ保管ヲ爲スヘキモノトス(一一九號回答)
- 一 疾病等ニ因リ數ヶ月間職務ヲ行ハサルトキハ十ヶ年間ノ收入百八拾圓ニ充テサルトキト雖モ執達吏規則第十九條ニ依リ國庫ヨリ其不足額ノ支給ヲ受ケルコトヲ得(同上)
- 一 執達吏規則第十三條ニ依リ區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事力第十一條ニ掲ケル者ニ執達吏ノ職務ヲ行ハシムル場合ニハ其職權ヲ以テシタルモノトシテ申立ニ因リテ爲シタルモノナルトキ間ハ書類ニ署名方ハ某區裁判所執達吏職務取扱某ト記載セシムヘキモノトス(同上)
- 一 二名ノ内一名ノ執達吏公務ノ爲メ數日出張シタルトキハ執達吏規則第十條ニ掲ケタル者ニ委任セサル事件ハ他ノ一名ノ執達吏ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得(同上)
- 一 執達吏規則第十一條第四號ニ該ル者力元甲執達吏ノ申立ニ因リ認可シタル代理者ナルトキハ乙執達吏ニ於テ之ニ委任スルコトヲ得(同上)
- 一 執達吏ハ官吏ニシテ且當事者ノ代理人タルニ個ノ資格ヲ有スルモノトス(二三號判例)
- 一 執達吏カ物件差押ノ際債務者ニ對スル注意トシテ爲シタル公示書即チ差押

- 一 物件ヲ處分シ標目等ヲ破棄スルトキハ處罰セラレヘキ旨記載シタル文書ハ執達吏カ職務ノ執行ニ關シ作成スルモノナレハ其官文書タルコト勿論ナリ
- 一 (二六二號判例) ミヤコ且當事者ノ外他人ノモノニ關シ差押物ニシテ封印ヲ破棄スルハ公文書ハ差押處分ニ隨伴シテ生スルモノアリテ封印其モノ、一部ニアラズシテ別個ノ効用ヲ有スル文書ナレハ差押物ニ施コシタル封印ヲ破棄シ併セテ公示書ヲ破棄スルトキハ封印破棄ト官文書毀棄ノ二罪ヲ構成スルモノトス(同上)
- 一 執達吏規則第二十二條ニ執達吏ハ此規則ニ依ルノ外一般官吏ノ例ニヨルトアリテ執達吏ハ公吏ニアラスシテ官吏ノ身分ヲ有スルコト明カナリ(同上)
- 一 執達吏ハ他ノ執達吏ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス(二一九號回答)
- 一 同一事件ニ付二名以上ノ執達吏共同シテ強制執行ノ委任ヲ受クルコトヲ得ス(二三三號回答)
- 一 執達吏役場ハ刑法ニ所謂公務所ニ該當シ執達吏ノ職務上爲ス所ノ行爲ハ執達吏役場ナル公務所ノ行爲ニ外ナラザレハ執達吏ニ保管ヲ命セラレタル自己ノ所有物ヲ處分シタル所爲ヲ刑法第二百五十二條第二項ニ同擬シタルハ正當ナリ(二六一號判例)

手執達吏ニ對シ役場設置ノ地ヲ指定シ又ハ其役場ノ出張所ノ設置ヲ命スル場合ハ書面ヲ以テ當該執達吏ニ指令スルヲ相當トス但其文式ハ適宜之ヲ定ム(二六八號回答)

- 一 登記事務取扱上差支ナキ見込ナルニ於テハ裁判所會計事務章程第十四條ニ準シ豫メ使用許可稟請ノ手續ヲ爲シ認可ヲ受ケタル上執達吏役場用トシテ不用ノ壺ヲ使用セシムルコトヲ得(同上)
- 一 執達吏規則第五條ノ二ニ所謂出張所トハ出張裁判ヲ爲スヘキ箇所ハ勿論單ニ登記事務ノミヲ取扱フ所ヲモ包含ス(二六九號回答)
- 一 執達吏相互間ノ職務代理ハ執達吏カ當事者ヨリ委任ヲ受クル際受任執達吏ニ於テ差支ヲ生シタル場合他ノ執達吏ニ於テ執行ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ノ委任アルトキハ差支ナシ(二八一號回答)

◎執達吏手数料規則

(明治二十三年七月二十五日 法律 第五十二號)

第一條 執達吏ハ此規則ニ從ヒ手数料ヲ受ク

第三條 書類送達ノ手数料ハ一通ニ付七錢トス

第三條 有體動産及未定土地ヨリ離レサル果實竝爲替證券  
業其他裏書ヲ以テ移轉スルモノトテ得ル證券又差押、假差押

ニ付テノ手数料ハ左ノ區別ニ從フ  
執行スヘキ債權額 手数料

一 貳拾圓マテ 拾 錢

二 五拾圓マテ 拾 錢

三 百圓マテ 九 拾 錢

四 貳百五十圓マテ 壹圓貳拾錢

五 五百圓マテ 壹圓五拾錢

六 千圓マテ 壹圓八拾錢

七 千圓ヲ超エルトキハ貳圓四拾錢トス

假差押ヲ爲シタル物ニ對スル差押ニ付テノ手数料ハ前項ノ

手数料ノ半額トス

若シ執務三時間以上ニ涉ルトキハ一時間毎ニ本條ニ定メ

タル手数料ノ半分ヲ三ヲ加之但其執務一時間未満トスル

モ一時間ト看做シテ算定ス

第四條 執達吏差押、假差押ヲ爲スルキ場所ニ臨ムト雖差

押スヘキ物ナキト判及以差押ヲ爲スルキ物ヲ換價スルモ強制

執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ前條ニ定

業オタル手数料ハ半額ヲ受ク

第五條 民事訴訟法第五百五十六條第二項、第五百八十六

條第二項、第六百十五條ノ場合及既ニ差押、假差押ニ著

手シタル執達吏ノ死亡若クハ其他ノ理由ニ依リ委任ノ消

滅シタルトキ物ヲ換價スル爲其委任ヲ引受ケタル場合

於テハ執達吏ハ第三條ニ定メタル手数料ハ半額ヲ受テ

第六條 特定ノ動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ債務者ヨリ

執達吏手数料規則

取上ケ之ヲ債權者ニ引渡シ場合ニ於テ其手数料ヲ壹圓  
 加ス若シ執務二時間以上ニ涉ルトキ其時間毎ニ貳拾錢  
 加ヌ但其執務一時間ニ滿タズルモ一時間ト看做シテ算  
 定スルハ時數吏ノ派シテ其由ニ於テ委由ノ前  
 前項之場合ニ於テ執達吏其場所ニ臨ムニ雖引渡スルキ物  
 案五キトモ前項ニ定メタル手数料ノ半額ヲ受テ百八十六  
 第七條 民事訴訟法第七百三十一條第一項ノ場合又ハ民事  
 訴訟法第七百三十三條第一項ノ決定ニ基キ執行ヲ爲ス場  
 合ニ於テハ執務三時間以内ノ手数料ヲ壹圓トス若シ其執  
 務三時間以上ニ涉ルルキハ一時間毎ニ貳拾錢ヲ加フ但  
 執務一時間ニ滿タズルモ一時間ト看做シテ算定ス  
 前項ノ場合ニ於テ執達吏其場所ニ臨ムニ雖船舶ヲラテ  
 前キ前項ニ定メタル手数料ノ半額ヲ受テニ本則ニ依ル

第七條ノ二下前二條ノ規定ニ假處分ノ執行ノ手数料ニ之ヲ  
 準用ス

第八條 民事訴訟法第六百四十三條第三項ニ依リ不動産ノ  
 取調ヲ爲ス場合ニ於テハ第三條ニ定メタル區別ニ從ヒ其  
 手数料ヲ受ク

第九條 不動産、不動産及船舶ノ競賣ニ付テノ手数料ハ左ノ  
 區別ニ從フ

競賣金額	手数料
貳拾圓	七拾錢
百圓	壹圓貳拾錢
五百圓	貳圓四拾錢
千圓	參圓四拾錢
千五百圓	四圓
二千圓	四圓五拾錢
二千五百圓	五圓
三千圓	五圓五拾錢
三千五百圓	六圓
四千圓	六圓五拾錢
四千五百圓	七圓
五千圓	七圓五拾錢
五千五百圓	八圓
六千圓	八圓五拾錢
六千五百圓	九圓
七千圓	九圓五拾錢
七千五百圓	十圓
八千圓	十圓五拾錢
八千五百圓	十一圓
九千圓	十一圓五拾錢
九千五百圓	十二圓
一千圓	十二圓五拾錢
一千五百圓	十三圓
二千圓	十三圓五拾錢
二千五百圓	十四圓
三千圓	十四圓五拾錢
三千五百圓	十五圓
四千圓	十五圓五拾錢
四千五百圓	十六圓
五千圓	十六圓五拾錢
五千五百圓	十七圓
六千圓	十七圓五拾錢
六千五百圓	十八圓
七千圓	十八圓五拾錢
七千五百圓	十九圓
八千圓	十九圓五拾錢
八千五百圓	二十圓
九千圓	二十圓五拾錢
九千五百圓	二十一圓
一千圓	二十一圓五拾錢
一千五百圓	二十二圓
二千圓	二十二圓五拾錢
二千五百圓	二十三圓
三千圓	二十三圓五拾錢
三千五百圓	二十四圓
四千圓	二十四圓五拾錢
四千五百圓	二十五圓
五千圓	二十五圓五拾錢
五千五百圓	二十六圓
六千圓	二十六圓五拾錢
六千五百圓	二十七圓
七千圓	二十七圓五拾錢
七千五百圓	二十八圓
八千圓	二十八圓五拾錢
八千五百圓	二十九圓
九千圓	二十九圓五拾錢
九千五百圓	三十圓

以上千圓毎ニ壹圓ヲ加ケ但千圓ニ滿タサルモ千圓ト看做シテ算定ス

任意競賣ニ付テモ亦前項ニ同シ

第十條 執達吏執行行為ヲ爲スヘキ場所ニ臨マサル以前ニ民事訴訟法第五百五十條ニ依リ又ハ委任ノ消滅ニ依リ強制執行ヲ止メタルトキ又ハ支拂若クハ引渡ニ依リ強制執行以委任終了シタルトキハ各本條ニ定メタル手数料ノ十分ノ三ヲ受ク但第九條ノ場合ニ於テハ其手数料ヲ四拾錢トス

第十一條 執達吏執行行為ヲ爲スヘキ場所ニ臨ミタル後民事訴訟法第五百五十條ニ依リ又ハ委任ノ消滅ニ依リ強制執行ヲ止メタルトキ又ハ支拂若クハ引渡ニ依リ強制執行ヲ委任終了シタルトキハ各本條ニ定メタル手数料ノ半額

ヲ受ク但第九條ノ場合ニ於テハ其手数料ヲ六拾錢トス

第十二條 第三條乃至第十一條ノ手数料ヲ受クヘキ行為ニ

於テ強制執行ノ場合ニ於ケル左ノ行為ヲ包含ス

第一 警察上ノ援助ヲ求メ又ハ證人鑑定人ノ立會ヲ爲サ

シムルコト

第二 回執行行為ニ屬スル催告其他ノ通知ヲ爲シ又ハ書類

ヲ送達ヲ爲スコト

第三 記名證券ヲ買主ノ氏名ニ書換ヘ及必要ナル陳述ヲ

債務者ニ代リ爲スコト

第四 支拂其他ノ給付、差押金錢及賣却金ヲ受取リ、交

付シ若クハ供託シ又ハ受取證書ヲ交付シ又ハ差押物ヲ

還付スルコト

第五 競賣ノ公告ヲ爲スコト

執達吏手数料規則

第十二條 執達吏が立替金として左ノ費用ノ辨濟ヲ受ク

第一 書記料

第二 郵便料、電信料、受取書類ヲ交付シ又ハ送附書

第三 公告料、訴訟金、執行費、取立金、受取書類

第四 鑑定人ノ手當

第五 職工、船役夫ノ手當、送附書、取立金、受取書類

第六 有價證券ノ記名書換及流通ヲ止メタル證券ノ流通

第七 回復スル爲メ費用、損害其出ハ取立金、受取書類

第八 人及物ノ送致費用

第九 物ノ保存並監視ノ費用、鑑定人ノ立會ノ爲メ

第十 旅費、宿泊料、訴訟金、取立金、受取書類

第十四條 前條ノ書記料ニ左ノ場合ニ於テ之ヲ受取イ

第七 法律ニ依リ又ハ利害關係人ノ請求ニ依リ證書及記録

此中ニ存シタル書類ノ謄本ヲ作リタル供託但法律ニ依リ交

第十 付シテ送達證書ノ謄本又此限出在ハスル里以上ハ

第二 供託ヲ爲スニ際シ執行裁判所ニ差出スヘキ届書ヲ

第三 差押命令ニ送達後第三債務者又爲該陳述等筆記シ

第十 字以上ノ人ノ支給スヘキ日當ハ加算シ以テ不識或人ニ支

書記料ハ半枚以上行ニ十字詰ニ付參錢トス但十二行ニ滿

第十五條 強制執行ニ關シテ告知及催告ヲ爲ストキハ其

第十六條 拒絶證書ヲ作成スル場合ニ於テハ其手数料ヲ五

拾錢トシ若シ執務時間以上ニ涉ルトキハ其時間毎拾貳

拾錢ヲ加フ但其執務ニ時間ニ滿タサルモハ時間内看做シ  
 算テ算定ス  
 第十六條ノ二ニ執行記録其他ノ書類ノ閱覽ニ付テノ手数料  
 第六既済ノ書類ニ限リ開回ニ付拾錢ニ限リ其  
 第十六條ノ三ニ付手数料ノ定テ事項ニ付テハ最類似スル事  
 項ト同一ノ手数料ヲ受ク  
 第十七條ノ證人ニ支給スヘキ日當ハ貳拾錢以下鑑定人ニ支  
 給スヘキ日當ハ五拾錢以下上ノ執達吏土地財情ニ從ヒ  
 之ヲ支給ス若シ一里以上ノ地ヨリ呼出シタルトキハ第十  
 八條ノ規定ニ從ヒ旅費ヲ支給ス  
 第十八條ノ執達吏自己ノ役場又ハ其出張所ヨリ一里以上ノ  
 地ニ至リ職務ヲ行フトキハ料里毎ニ拾五錢以下ノ旅費ヲ  
 受ク但一里ニ滿タサルモ其里内看做シテ算定ス

執達吏其職務ヲ執行スル爲宿泊ヲ要シタルトキハ一泊ニ  
 付壹圓貳拾錢以下ノ宿泊料ヲ受ク  
 右旅費及宿泊料ノ額ハ控訴院長ノ認可ヲ經テ地方裁判所  
 長之ヲ定ム  
 第十九條ノ執達吏ハ總務ノ事務ヲ擔任スルニ當リ手数料及  
 立替金ノ概算額ヲ委任者ヨリ豫納セシム若シ豫納セサル  
 トキハ委任ニ應セサルトテ得但裁判所及檢事局ノ命令  
 ニ依ルトキ又ハ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者爲ニ事務ヲ  
 擔任スルトキハ此限ニ在ラス  
 第二十條ノ執達吏ハ委任ノ終了シタル後手数料及立替金ノ  
 辨濟ヲ受クヘキモノトス但民事訴訟法第五百五十四條ニ  
 規定スル場合ハ此限ニ在ラス  
 第二十条條ノ二ニ執達吏規則第十六條但書ノ場合ニ於ケル執



銀行ノ費用ハ被徵收者ノ負擔トス(四十二年法律第三號ヲ以テ追加)

第三條乃至第五條及第八條乃至第十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條ノ前條ノ場合ヲ除ク外執達吏裁判所及檢事局ノ命令ニ依リ其職務ヲ行ス爲ニ要シタル立替金ハ三箇月

毎ニ確定シテ之ヲ支給ス(同上ヲ以テ本項中改正)ノ命令右立替金ハ國庫ヨリ之ヲ支辨ス

第二十二條ノ訴訟上ノ救助ヲ付與シタル場合ニ於テハ執達吏ノ立替金ハ國庫ヨリ支辨ス但債務者ヨリ辨濟シ能ハサル場合ニ限ル

第二十條ノ二ノ場合ニ於テ被徵收者立替金ヲ辨濟スルコト能ハサルトキハ國庫ヨリ之ヲ支辨ス(同上ヲ以テ本項

追加)

追加)

第二十三條 執達吏ハ其職務執行ニ付作リタル書類ノ正本

又ハ謄本ニ手数料及立替金ノ額ヲ附記スヘシ又執務時間

ニ應シ其辨濟ヲ受クヘキトキハ調書ニ其執務時間ヲ附記

スヘシ若シ之ヲ附記セサルトキハ長短ノ時間ニ付テ定メ

タル金額ヲ以テ算定ス

解釋回疑

二執達吏財産保管ニ付債權者ノ依頼ヲ受ク特別ノ手数料爲ヌモ手数料ハ勿論報酬タリトモ之ヲ受クルコトヲ得ス(六號回答)第十六條ノ三參照

二執達吏ハ強制執行ノ爲メニスルトト假處分ノ爲メニスルトト問ハス民事訴訟法第七百三十一條ノ行爲ヲ爲シタル中ハ其手数料ヲ受クヘシ(一一號決議)

二民事訴訟法第七百三十一條第五項ノ場合ニ於ケル手数料ハ手数料規則第九條ニ依ルヘキモ尚法第七百三十三條ノ場合ハ手数料ヲ生スヘキ謂レナシ(一二號決議)

二(二號決議) 評議吏ハ若シ裁判所ニ於テ五箇月ニ達セザルニ至ラズニ至ラズ

- 一 手数料規則ハ執達吏カ法律規則ニ依リ正當ニ事務ヲ執リタル場合ノミニ適用ス可キモノナリ(二四號決議)
- 二 刑事附帶私訴ニ付執達吏ニ支拂フ呼出狀等送達旅費及口手数料ハ當事者ノ負担スヘキモノナリ(同上)
- 三 手数料規則第十條ニ定メタル手数料ノ外差押ノ解除ニ付手数料ヲ徴收スルコトヲ得ス(七六號回答)
- 四 出張中天災地變ニ因リ滞在シタル場合ハ旅費ノ外日當ヲ給スルコトヲ得サルモノトス(六四號回答)
- 五 一執行行為ヲ爲ス場所ニ臨ミ已ニ執行ニ着手中民事訴訟法第五百十條ニ依リ又ハ委任ノ消滅キヨリ執行行為ヲ止メ若クハ委任終了シタルトキト雖モ手数料ノ全額ヲ受取ヘキモノトス(七九號回答)
- 六 一連帶債務者ニ對シ各別ニ強制執行ヲ爲ストキハ執行手数料ハ各債務者ヲ分ケ徴收スヘキモノトス(一〇三號回答)
- 七 一戶籍法違犯事件ニ付キ呼出狀其他數通同時ニ同地方へ送達シタル執達吏ノ受取ヘキ旅費ハ兼行ナルヲ以テ一個分ノ外立替フヘカラス又國庫支辨ニ屬スル事件ニ付テノ送達ト兼行セシ場合ハ其數ニ應シ分割シタル額ヲ立替フ

- 一 へキモノトス(同上)
- 二 同時ニ判決ヲ受ケタル連帶債務者二人ニ對スル執達吏ノ強制執行手数料ハ各別ニ計算スヘキモノトス(一〇六號回答)
- 三 一執達吏カ代理者ヲシテ補助ヲ爲サシメタル場合ニ於テ差押時間二人ニテ三時間ヲ要シタルトキハ一人ノ三時間ニ付テハ普通ノ差押手数料他ノ三時間ニ付テハ時間増ノ手数料ヲ徴收スルコトヲ得(一一二號回答)
- 四 一 手数料規則第十九條ニ依リ豫納セシメタル金員ハ其委任事件終了前ニ於テハ其職務執行ヲ爲シタル限度ニ於テ相當金額ヲ引去リ使用スルコトヲ得ス(一一二號回答)
- 五 二 同第九條ニ以上千圓毎ニ壹圓ヲ加フトアルハ超過額ハ千圓ニ滿タサルモ壹圓ヲ加フル趣旨ナリトス(一一六號回答)
- 六 一 執達吏カ強制執行ニ依リ差押ヘタル石炭ヨリ發火シタルヲ以テ直ニ現場ニ出張多數人夫ヲ使役シ晝夜之カ防禦ニ從事シタル場合ニ於テハ車馬賃宿泊料等ノ實費ハ手数料規則第十三條第八號ニ依リ物ノ保存費用トシテ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘシト雖モ旅費手数料等ハ同規則第十五條第二項ノ規定ニ依リ之ヲ受クルコトヲ得ス(一一七號回答)

- 一 差押解除ノ場合ニ於テ物件ノ還附ヲ受クヘキ者所在不明又ハ遠隔ノ地ニ在ルトキハ執達吏ハ本人代理人又ハ財産管理人ニ物件ヲ交付スルコトヲ得ルニ至ルマテ之ヲ保管スルノ外ナカルヘシ(非訟事件手續法第十六條ニ該當スル場合ニハ同條ノ手續ヲ爲スヘシ) 保管ノ費用ハ結局責任者ノ負擔ニ歸スヘシト雖モ執達吏ハ手数料規則第十三條第八號ニ依リ債權者ヨリ其辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘシ(一一七號回答)
- 二 執達吏ニ於テ債權者甲乙丙三名連帶債務名義ニ基ク百圓ノ執行委任ヲ受メ有体動産差押ヲ爲ス場合ニ於テ先ツ甲ニ對シテ施行シタルニ其差押見積價額七拾圓ニシテ債權ヲ満足シ得サルニ依リ更ニ不足額參拾圓ニ對シ乙ノ財産ヲ差押タルニ是亦見積額貳拾圓ニ止マルヲ以テ尙ホ丙ニ對シ不足額拾圓分ノ差押ヲ爲シタルトキ其差押手数料ハ各金額ヲ執行シ得ヘキ債權額ト爲シ之ヲ三事件トシテ計算スルモノトス(一五三號回答)
- 三 訴狀送達及ヒ期日呼出狀ノ送達ニ付テハ一總分ノ手数料ヲ徵收スルキモノトス(一六九號決議)
- 四 同一債務者義ヲ以テ同一債務者ニ對シ同日若クハ異日同場所又ハ異ナル場所ニ於テ數回ニ差押ヲ實施シタル場合ハ第二以後ノ差押ニ付テハ手数料規

- 則第三條第二項ノ時間増手数料ノミヲ徵收スヘシ(同上)
- 一 照査手續カ未タ差押ノ効力ヲ生セサル以前當事者カ合意上照査手續ヲ取消シタル場合ハ參十條ヲ徵收シ得ヘシ(同上)
- 二 債務者占有中ノ動産ヲ取上ケ之ヲ執達吏ニ保管セシムル仮處分且關スル手数料ハ第六條ニ依ルヘシ(同上)
- 一 家屋明渡假處分ノ爲メ執行ノ場所ニ臨ミタル後當事者ヲ求メヨリ明渡ノ猶豫ヲ與ヘタルハ第十一條ニ依リ第七條ノ半額ヲ受クルモ以下同(同上)
- 一 記名有價証券(記名株券ノ如キ)競賣ニ付テハ第九條ニ依リ動産競賣ノ手續料ヲ徵收スルヲ相當トス(同上)
- 一 差押物件ヲ數回ニ解放シ又ハ競賣ト前後シテ解放シタルトキ委任終了ノ手数料徵收方ハ左ノ區別ニ依ル
- イ 圖々ニ解放シタルトキハ最後ノ一ニ付徵收スヘシ
- ロ 最後ニ競賣シタルトキハ競賣手数料ノミヲ徵收シ得ルモ其以前ニ爲シタル解放ニ付テハ數回アルト雖モ手数料ヲ徵收スルヲ得ス
- ハ 一部競賣後ニ於テ殘物件ヲ競賣セス強制執行ヲ止メタルトキハ競賣手數

料及委任終了手数料參拾錢ヲ徴收スヘシ(同上)

一 物件差押手續進行中債權者ノ申出又ハ債務者ノ任意辨濟ニ依リ爾後ノ差押ヲ止メ且ツ既ニ爲シタル差押物ヲ遺附スル場合ハ第十條後段手数料ヲ徴收スヘシ(同上)

一 執達吏方債權者ノミノ申出ニ依リ執行ヲ取消シタル場合ニ於テ之ヲ債務者ニ通知スルハ強制執行ニ屬スル行爲トシテ報酬ナキモノト謂ハサルヲ得ス(同上)

一 執達吏方差押物件ヲ債務者ノ保管ニ委シタルニ脱漏ノ恐レアリトシ債權者ヨリ他人ニ保管ヲ請求シタルニ付出張ノ上差押物件ヲ調査シ他人ニ引渡シ保管セシメタル場合ハ其旅費手数料ヲ徴收シ得ヘク其手数料ハ前ノ差押ノ繼續ト看做シ前差押執務時間ニ通算シ三時間以上ニ渉ルトキハ手数料規則第三條ニ依ル増時間ノ手数料ヲ徴收スルヲ相當トス(二二七號回答)

一 有体動産差押後競賣ノ爲メ現場ニ出張セシモ全部脱漏セラレ競賣實施スルコト能ハサリシ場合ハ手数料規則第十一條ニ準據シ五拾錢ノ手数料ヲ受クルコトヲ得ヘシ(二二三號回答)

一 差押又ハ仮差押ヲ爲スヘキ場所ニ臨マサル前委任解除又ハ執行猶豫(民事

訴訟法第五百五十條第四號後段ニ該當スル場合ヲ謂フ)ノ申出アリタルトキハ規則第十條本文ニ依リ第三條第一項ニ定メタル手数料ノ十分ノ三ヲ受ク可キモ其事件ノ債務者二人以上アルトキト雖モ各別ニ手数料ヲ受クルコトヲ得ス(二三四號回答)

一 差押ヲ爲スヘキ場合ニ臨ミ仮差押ヲ爲シタル物ニ對シ差押ヲ爲セントスルニ際シ委任解除又ハ執行猶豫ノ申出アリタルトキハ手数料ハ規則第十一條ノ本文ニ依ルヘキモノニテ第三條第二項ニ定メタル半額ノ半額ヲ得トス(同上)

一 差押又ハ仮差押ヲ爲サンカ爲メ債務者ノ住所其他ノ場所ニ臨ミタルモ債務者全戸不在又ハ住所相違其他ノ事情ニ因リ當日之ヲ實行スルコト能ハサリシトキノ手数料ハ規則第十六條ノ三及ヒ第四條前段ノ場合ニ準シ第三條第一項ニ定メタル手数料ノ半額ヲ受クヘキモノトス(同上)

一 差押物ノ競賣ヲ爲スヘキ場所ニ臨ミタルモ途ニ競買人來集セサル爲メ競賣ヲ實行スルコト能ハサリシトキノ手数料ハ規則第十六條ノ三ニ依リ第十一條但書ノ規定ヲ準用シ金六拾錢ヲ受クヘキモノトス(同上)

一 手数料規則第十八條ノ一里トハ陸路ニ付テハ三十六町海路ニ付テハ一海裡

- 一 手指シテ取付モノトス(同上)
- 一 陸路ニ付テハ鐵道便ノ有無ニ拘ハラヌ三十六町サ以テ山里トスヘキモノトス(同上)
- 一 裁判所ヨリ破産者ノ動産ヲ封印ヲ爲スコトヲ執達吏ト命ジタルトキハ手數料規則第十六條ノ三ノ適用ニ依リ同第三條ノ手數料ヲ支給スヘキモノトス(二三八號回答)
- 一 仮差押又ハ差押ヲ解除シ物件ヲ還付スルコトハ執達吏手數料規則第十二條第四號ニ依リ同規則第三條ノ行爲中ニ包含スルモノナルヲ以テ特ニ手數料ヲ徴收スルヲ得ス(同上)
- 一 商法第千二條ニ依リ動産ノ封印ヲ命ゼラルル場合ハ手數料ハ規則第十六條ノ三ニ基キ同規則第三條第一項ノ手數料ヲ受タヘキモノニテ破産申立書ニ表示シタル債權額ヲ標準トシテ手數料ヲ算出スヘキモノトス(五三九號回答)
- 一 商法第千十八條ニ依リ動産ノ競賣ヲ委任セラレ其引渡ヲ受ケザル場合ハ手數料ヲ受ケルヲ得ス(同上)
- 一 競賣法第三條ニ依リ動産ノ競賣ヲ委任セラレ其引渡ヲ受ケザル場合ハ手數

料ヲ受ケルヲ得ス(同上)

- 一 配當要求カ執行力アル正本ニ因リタルモノナルト否トニ拘ハラヌ其通知ニ付テハ手數料規則第十二條ノ規定ニ依ルヘキモノニシテ特ニ手數料ヲ受ケルコトヲ得ス(同上)
- 一 債務者甲乙丙三名連帶債務名義ニ基テ執行委任ヲ受ケ先ツ甲ノ住所ニ臨ミ差押ヲ爲サントシタルニ甲ハ直ニ債務額及ヒ執行費用ヲ支拂ヒタルニ依リ委任ノ消滅シタル場合ハ乙丙ニ對シテハ規則第十一條ニ依リ同第三條ノ手數料ノ半額ヲ徴收スルコトヲ得サルモノトス(實例)
- 一 民事訴訟法第五百八十六條ノ規定ニ基テ照査手續ヲ同一執達吏ニ於テ爲シタルトキハ勿論差押執達吏ト照査執達吏ト其人ヲ異ニスルトキト雖モ規則第五條ニ依リ照査手續ヲ爲シテ手數料ノミニ止リ引受手數料ヲ徴收スルコトヲ得ス(實例)
- 一 前項ノ場合他ニ差押フ可キ物アリテ差押調書ヲ作りタルトキハ差押ニ付テハ手數料全額ヲ受ケルモノトス但照査手續ノ爲メニ要シタル時間ハ差押時間ニ合算ス(實例)
- 一 地所建物引渡ノ執行委任アリタルトキ第一日ニ地所ノ引渡ヲ爲シテ建物

付テハ債權者ニ於テ義務履行猶豫ノ申立アリテ執行ヲ停止シ第二日ニハ建物ノ内土藏ノミ引渡ヲ爲シテ居宅ニ付テハ又義務履行猶豫ノ申立アリテ執行ヲ停止シ第三日ニ於テ居宅ヲ引渡シ全ク委任ノ終了ヲ爲シタル場合第一乃至第三日ニ爲シタル執行行為毎ニ手数料規則第七條ニヨリ引渡ノ手数料並ニ増時間ノ手数料ヲ受クルヲ相當トス(實例)

一 旅行ニシテ陸路瀧車路及ヒ海路ニ涉リ而シテ一里一哩一海裡ニ滿タサル各端數ヲ生スル場合ハ各端數ヲ一里一哩一海裡ニ切土メ計算スルキモノトス(二四七號回答)

一 手数料規則第三條第二項ノ規定ハ仮差押債權以外ノ債權ニ基キ強制執行ヲ爲シタル場合ノミナラス仮差押ヲ爲シタル債權下同ク債權ニ基キ爲シタル強制執行ニモ適用セラル(二五一號回答)

一 仮差押ニ係ル物ト仮差押ニ係ラサル物ト併セテ差押ヲ爲シタル場合假令債權額金千圓(同七)

一 差押物ノ見積價額金九百圓(同七)

假差押ニ係ル物ノ見積價額金六百圓

假差押ニ係ラサル物ノ見積價額金參百圓

一 執務時間五時間(同七)

又假差押ニ係ル物ヲ差押ニ要シタル時間二時間(同七)

又假差押ニ係ラサル物ヲ差押ニ要シタル時間三時間(同七)

ナルトキノ手数料ハ時間ノ長短又ハ差押物見積價額ノ多寡等間ハス假差押

ニ係ル物アルモ之ヲ眼中ニ置カズ全部假差押ニ係ラサルモノトシテ取扱セ

規則第三條第一項及ヒ同第三項ニ依リ手数料金貳圓八拾八錢ヲ受ケルヲ相

當トス(内譯金壹圓八拾錢三時間以内ノ手数料、金壹圓八錢三時間ヲ超過

スルニ時間分リ手数料)(二五八號回答)

一 甲乙丙丁戊巳庚辛八名ノ連帶債務者ニ對シ何レモ財產差押ヲ爲シタル後甲

乙丙丁戊巳ニ對シテハ競賣臨場前三其債權者ヨリ左ニ申出ヲ爲シタル

甲ニ對シテハ五月一日該人ニ關スル執行委任ヲ解除

乙ニ對シテハ五月二日競賣實施ヲ猶豫

丙ニ對シテハ五月三日午前正同上

丁ニ對シテハ同日午後三時同上  
戊巳ニ對シテハ五月四日同時同上

庚辛ニ對シテハ何等ノ申出ヲ爲サ、ルニ付五月五日競賣實施ノ爲メ其住所  
ニ臨場シタル所債權者其ノ同時ニ二名ニ對シテ競賣實施猶豫ノ申出ヲ爲シタ  
ルニ付丁巳日庚辛ハ六名ノ債權者其ノ同時ニ二名ニ對シテ競賣實施猶豫ノ申出ヲ爲シタ  
然ル所五月六日ニ至リ同時ニ債權者ヨリ乙丙丁戊巳庚辛ノ七名ニ對スル委  
任解除ノ申出ヲ爲シタリ且三和問員内ノ毛部林、金部圓八、三和問員鼓屋  
以上ノ場合甲ニ對スル委任解除及乙丙丁戊巳ニ對スル競賣猶豫ニ付テハ何  
レモ一部ノ委任解除又ハ競賣猶豫ナルヲ以テ手数料ヲ徵收スヘキモ以テ非  
スシテ最後ニ庚辛ニ對スル競賣猶豫ヲ爲シタリ至リ全部ノ競賣猶豫アリタル  
モ以テ其ノ二付之ニ對シテ執達吏手数料規則第十條ノ手續書ノ手数料一個ヲ受ケ  
又其翌日乙丙丁戊巳庚辛ノ全部ニ對スル委任解除ニ付更ニ同規則第十條但  
書ノ手数料一個ヲ受ケルコトヲ得ルモノトス(二五八號回答)

一規則第九條ノ手数料ハ連帶債務名義ノ場合各債務者毎ニ各別ニ手数料ヲ受  
ケルコトヲ得ルモノニシテ競賣實施場所ノ異ナルト否トニ依リ區別ナキモノ  
トス(二五九號回答) 且競賣金六百圓

一市外ノ電車路ニシテ遠距離ノモノニ付テハ電車路ニ倣ヒ哩數ニ割當テ適宜  
旅費額ヲ定ムルヲ相當トス(明治四五、五民事第一四八四號回答)

一箇ノ債權ニ基クテ支拂命令ト仮差押命令ト執行ヲ受任シ同時ニ施行シタル  
トキハ其送達若クハ執行ハ事件異ナルモ其事件ノ基本タル債權ガ同一ナル  
ヲ以テ旅費ハ一箇ノ外徵收ヲ得サルモノトス(同上民事五一號回答)

一法律上債權者ノ立會ヲ必要トスル場合及ヒ執達吏ニ於テ立會ヲ必要ト認ム  
ル場合ト雖モ債權者ノ現場ニ出張セシ旅費日當ハ執行費用トシテ債務者ノ  
負担ニ歸セシムヘキモノニアラス(實例)

◎執達吏登用規則 (明治二十三年八月二日 司法部令第二號)

第一條 執達吏ニ任セラルルニハ左ノ諸件ヲ具備スルコト

第一 年齢滿二十五歲以上ナルコト

第二 陸海軍ノ現役ヲ終ヘ又ハ之ヲ免セラレタルコト

執達吏登用規則 五二

- 第三 身體健全ナルコト
- 第四 家計ノ整理シタルコト
- 第五 品行方正ナルコト
- 第六 試験ニ及第シタルコト
- 第二條 左ニ掲クル者ハ執達吏ニ任セラル、コトヲ得ス
  - 第一 重罪ヲ犯シタル者但國事犯ニシテ復權シタル者ハ此限ニ非ス
  - 第二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者
  - 第三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免カレサル者
  - 第四 懲戒ノ處分ニ由リ免職セラレタル者
- 第三條 執達吏ノ試験ヲ受ケントスル者ハ少クとも六箇月間區裁判所ニ於テ主トシテ執達吏ノ職務ヲ修習シ傍ラ書記ノ職務ヲ修習スルコトヲ要ス

- 職務ノ修習ヲ爲ス者ハ職務上ノ秘密ヲ漏洩スヘカラス
- 第四條 職務修習ヲ願フニハ願書ニ兵役ニ關ル證書及履歷書ヲ添付シ之ヲ地方裁判所長ニ差出シ其ノ許可ヲ受クヘシ
- 第五條 大正二年司法省令第八號ヲ以テ本條以下「控訴院長」ヲ「地方裁判所長」ニ改ム
- 第五條 職務修習ノ許可ヲ爲シタルトキハ地方裁判所長ハ修習者ノ屬スヘキ區裁判所ヲ指定スヘシ
- 區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ授業ヲ擔當スヘキ
- 執達吏及裁判所書記ヲ選定シ職務ノ訓導ヲナサシムヘシ
- 第六條 地方裁判所長ハ修習者ノ行狀執達吏トナルニ不適當ナリト認ムルトキハ其修習ヲ止ムルコトヲ得
- 第七條 職務修習者試験ヲ受ケントスルニハ第一條第一乃至第五ノ諸件ヲ具備シタルコト及第二條ノ諸件ニ關ル



凡前項ノ證明シ並修習ノ日數ヲ記入シタル願書ヲ區裁判  
 所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ヲ經由シテ地方裁判所長ニ  
 差出スヘシ  
 區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ前項ノ願書ニ意見  
 ヲ付スルハ其願書ニ對シテ其願書ニ對シテ其願書ニ對シテ  
 地方裁判所長ハ書類ヲ調査シ試驗ヲ許否ヲ定メ當シヘキ  
 第八條 試驗ハ地方裁判所ニ於テ毎年一回之ヲ行フ  
 第九條 試驗委員長及試驗委員ハ地方裁判所及區裁判所ノ  
 判事檢事ノ中ヨリ試驗舉行毎ニ司法大臣之ヲ命ス  
 第十條 大地方裁判所長ハ試驗ヲ受クヘキ修習者ノ名簿ヲ試  
 驗委員長ニ送付スヘシ  
 前項ノ送付アリタルトキハ試驗委員長ハ試驗期日又定規  
 之ヲ修習者ニ告知スヘシ

第十條 試驗ハ筆記試驗ハ筆記口述ノ二様トス

第十一條 試驗ハ筆記試驗ニ及第タル者ニ之ヲ行ハシメ  
 第十二條 試驗ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ  
 第一 民法  
 第二 民事訴訟法及治罪法  
 第三 中書類送達及執行ニ關ル規  
 程

第二ノ執達吏ニ關ル諸規則

第三 算術(加減乗除分數比例)

第四 非讀書筆寫

第十三條 筆記試驗問題ノ答案ハ裁判所官吏監督シテ之  
 ヲ作ラシム

試驗委員長ハ受験者ノ申立アルトキハ區裁判所ニ於テ筆  
 記試驗問題ノ答案ヲ作ラシムルコトヲ得

第十四條 受験者ノ及第落第及及第者ノ優劣ハ筆記試驗日  
 執達吏登用規則

衆述試験ノ成績ニ對スル委員過半數ノ意見ニ從テ之ヲ決ス  
及第落第ニ付テノ意見數相半スルハ落第ト看做スヘシ  
第十五條 試驗ニ及第シタル者ニハ試驗委員長及試驗委員  
ノ連署シタル及第證書ヲ授與ス

第十六條 試験ニ落第シタル者ハ更ニ三箇月以上修習ヲ爲  
スニ非サレハ再ヒ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第十七條 不正ノ方法ヲ以テ及第ヲ企テタル者ハ再ヒ試験  
ヲ受クルコトヲ得ス其及第シタル者ハ及第ノ効ナキモノ  
トス

第十八條 試驗委員ハ試験ノ問題及成績ヲ記録ニ記載スヘ  
シ

第十九條 試驗委員長ハ及第者ノ氏名及其試験成績ヲ地方  
審裁判所長ニ報告スヘシ

第二十條 左ニ掲クル者ハ試験ヲ要セス執達吏ニ任セラレ

- 第一 官立府縣立中學校又ハ之ト同等ナル官立府縣立
- 第二 司法省舊法學校又ハ帝國大學ノ監督ヲ受ケタ
- 第三 舊私立法學校及文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依
- リテ法律學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ有スル者
- 第四 裁判所書記ノ登用試験ニ及第シタル者
- 第五 第三審判任官以上ノ職ヲ現ニ奉シ又ハ會テ奉シタル者
- 第六 第四陸軍下士ニシテ文官奉職ヲ請願スルコトヲ得ル

第二十一條 第三條乃至第六條ノ規程ハ前條ニ掲ケタル者

ニモ亦之ヲ適用ス  
前條第四ニ該ル者ハ職務修習ノ願書ニ修習ヲ爲サン

此區裁判所ヲ記載シ陸軍大臣ヲ經由シ司法大臣ニ差出スヘシ司法大臣ハ願書ヲ管轄地方裁判所長ニ送付スヘシ  
區裁判所書記ハ職務修習ヲ要セス執達吏ヲ任セラルル者トヲ得(二十四年司法省令第六號ヲ以テ追加)

第二十四條(大正二十一年司法省令第八號ヲ以テ削除)  
第二十三條(執達吏ニ任セラレタル者ハ任補ノ日ヨリ三十日內ニ保證金ヲ管轄地方裁判所ニ納ムヘシ若シ其期間內ニ保證金ヲ差出サ、ルトキハ職務ヲ罷免ス書ヲ管轄地方裁判所長之ヲ定ム同書ヲ管轄地方裁判所長ニ送付ス)從ヒ地方裁判所保證金ハ相當ノ價格アル公債證書日本勸業銀行發行勸業債券及貯蓄債券日本興業銀行發行債券若ハ日本銀行株券ヲ以テ之ヲ代スルコトヲ得(三十三年司法省令第三號三

十七年同第二號三十九年同第四號ヲ以テ本項中改正)

第二十四條 執達吏保證金ヲ納メタルトキハ裁判所ハ官印ヲ交付ス  
執達吏ハ官印ノ交付ヲ得タル後ニ非サレハ職務ヲ行フコトヲ得ス

附則

第二十五條、本則實施ノ際ハ職務修習ヲ要セス試驗及任補  
見行又トヲ得

一執達吏タラント欲スル者ハ假令充分職務ニ習熟セシモノト雖モ六ヶ月ノ修習ハ必ス之ヲ爲サ、ルヘカラス(十五號決議)

◎執達吏ニ交付スヘキ證票調製方(大正三年四月十四日)司法省訓令第一五號

執達吏ニ交付スヘキ證票調製方

第一條 執達吏規則第十四條ニ定メタル證票ハ左記雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 證票ハ豎三寸幅二寸トシ強靱ナル厚紙ヲ用ウヘシ

第三條 證票ニハ其表面ニ區裁判所ノ印ヲ押捺スヘシ

第四條 區裁判所ハ證票交付簿ヲ備ヘ證票ノ番號交付ノ年月日及交付ヲ受ケタル者ノ氏名ヲ記入スヘシ

第五條 執達吏ノ證票實收ノ簿ヲ備ヘ証票ノ番號及交付ノ年月日及交付ヲ受ケタル者ノ氏名ヲ記入スヘシ

(面 表)	第 號
執達吏證票	
(面 裏)	某區裁判所所屬 執達吏 何 某

執達吏代理ノ證票

(面 表)	第 號
執達吏代理證票	
(面 裏)	某區裁判所所屬 執達吏何某代理 何 某

一 執達吏代理ノ證票ハ執達吏、執達吏代理者毎ニ各別ニ調製スヘキモノトス

第二條 執達吏代理ノ證票ハ其表面ニ區裁判所ノ印ヲ押捺スヘシ

第三條 區裁判所ハ證票交付簿ヲ備ヘ證票ノ番號交付ノ年月日及交付ヲ受ケタル者ノ氏名ヲ記入スヘシ

執達吏懲戒令

◎執達吏懲戒令

(明治四十一年六月十六日勅令第百五十三號)

第一條 執達吏ノ懲戒ニ付テハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ  
外文官懲戒令中判任官ニ關スル規定ヲ準用ス

第二條 懲戒ハ左ノ三種トス

一 免職

二 一年以下ノ停職

三 譴責

第三條 免職及停職ハ文官普通懲戒委員會ノ議決ニ依リ司

法大臣之ヲ行フ

譴責ハ司法大臣之ヲ行フ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

特選吏升野ノ罰票

特選吏同某升野  
某罰票

◎執達吏職務細則

(明治二十三年一月二十日) 司法省民第二四一〇號訓令

第一章 總 則

第一條 執達吏其職務ヲ施行スルニ付テハ裁判所構成法民  
事訴訟法刑事訴訟法及ヒ執達吏規則ニ從フ以外尙ホ此細  
則ニ從テ可シ

第二條 執達吏ノ職務ヲ施行ス可キ管轄區ハ裁判所構成法

第九十七條及ヒ執達吏規則第七條ノ規定ニ從テ可シ然レ

兼テ執達吏ノ當事者ヨリ直接ニ委任ヲ受ケルハ執達

吏規則第七條ノ規定ニ拘ハラズ直チニ其委任ニ應スル義

務アリ

第三條 執達吏ハ官廳又ハ官吏ヨリ委任ヲ受ケザルハ人民

ヨリ委任ヲ受ケザルハ人民

執達吏職務細則

二依リ其職務ヲ施行ヨリ除斥ラルル或ハ其職務ハハシメテ  
 第四條 執達吏委任ヲ受ケタル後法律上又ハ事實上ノ理由  
 因リ職務施行ニ差支ラ生シタルトキハ執達吏規則第十  
 二條ノ規定ヲ從テ可シルハモス直モニ其委任ニ應ズル  
 第五條 時委任者又ハ裁判所書記ヨリ職務施行ニ關スル書  
 類ヲ執達吏ニ渡シ口頭ヲ以テ委任シタルトキハ其委任ハ  
 執達吏ヲシテ其職務ヲ施行セシムルニ十分ナル効力ヲ有  
 裁判所又ハ檢事局ヨリ命ズル事件ニ付テハ裁判所書記  
 兼ハ之ヲ執達吏ニ委任スル權アリトシ裁判所書記兼執達吏  
 トノ職務上交通ノ手續ハ裁判所書記職務章程中ニ之ヲ定  
 ム  
 職權ヲ以テ命ズル可キ事務ニ關スル委任又ハ裁判所書記ヲ

經テ爲ス委任ノ授受方法ハ執達吏ノ所屬裁判所ニ於テ定  
 ムル細則ニ從テ可キモノトス又ハ學事ヤハ裁許ニ付テ又  
 委任ニ關スル書類ヲ書記課中ニ執達吏ノ爲メ設ケタル書  
 函ニ差入アルトキハ口頭ヲ以テ委任セラレタルト同一ノ  
 効力アリトス但シ其期間ハ委任書中ニ定メテ完結スルニ付  
 第六條 執達吏ハ委任ヲ受ケタル事件該遲滯ナク完結ス可  
 シ  
 施行上期間ヲ定メタルモノハ其期間内ニ必ス之ヲ完結ス  
 可シ若シ正當ノ差支アル場合ニ於テハ相當ノ時間内ニ代  
 理人任命ノ求ヲ區裁判所ニ申立テ可シ  
 其他ノ場合ニ於テハ執達吏ハ委任事件ノ緩急ニ從ヒ順序  
 ヲ定メ之ヲ完結ス可シ若シ此際任意競賣事件ノ委任ヲ受  
 業ケタルトキハ他ノ事件ノ後ニ之ヲ廻ス可シ  
 申事又ハ裁

第七條 執達吏ハ日曜日及ヒ一般ノ祝祭日ニハ判事又ハ檢事ノ許可ヲ受ケ非サレバ其職務ヲ施行スルコトヲ得ズ此許可ハ命令ハ職務施行ノ際之ヲ示シ又此職務施行ニ付キ作ル可キ證書中ニ其旨ヲ記入シ又書類ヲ送達スルトキハ命令ノ謄本ヲ添附ス可シ

第八條 夜間ニ強制執行行爲ヲ爲ス可キトキハ執行裁判所ノ許可ヲ受ク可シ

第九條 裁判所ノ休暇ハ執達吏ノ委任事件ヲ完結スルニ付テハ義務ニ影響ヲ及ボサズルモストスルニ依リ同ノ一ノ第十條ニ執達吏ハ其職務上保管ス可キ金錢有價證券、書類及ヒ物品ヲ貯藏スル爲メ土藏又ハ堅牢ナル建物ヲ有シ又之ヲ借受ク可キ義務アリ

第十一條 執達吏ハ其職務上保管ス可キ金錢ヲ自己ノ金錢ト區別シ且ツ之ヲ密封シテ貯藏スル義務アリ

第十二條 執達吏ハ其職務上保管ス可キ金錢有價證券、書類及ヒ物品ヲ受取ラタル場合ニ於テ之ヲ渡シタル官廳又ハ人民ヨリ其受取ノ證ヲ求ムルトキハ之ヲ交付ス可シ

民事訴訟法第五百三十五條ノ場合ニ於テハ右ノ求テキモ受取ノ證ヲ交付ス可キモノトス

第十三條 執達吏ハ證書ヲ作ル場合ニ於テハ各證書ノ種類ニ付キ特別ノ規定ノ外尙ホ左ノ諸件ヲ遵守ス可シ

第一 各證書ニハ其作成ノ年月日時場所及ヒ住所官氏名ヲ記載シテ捺印ス可シ

第二 證書ハ明確ニ之ヲ作成シ且成ル可ク簡易ナル文字ヲ用弁ルコトニ注意ス可シ鉛筆ノ類ヲ用弁ルコト

第二 證書ハ其正本ナルト臆本ナルトヲ問ハズ空行ナク之ヲ作ル可シ若シ抹消ヲ爲ス可キトキハ後日其文字ヲ讀ミ得ヘキコトニ注意シテ線ヲ引キ之ニ捺印ス可シ印刷シタル書式用紙中ニ記入ヲ爲ス可キ際其記入ス可キ事項ナキ部分ニ付テハ後日記入ヲ爲サシメ受取タル爲メ其空間ニ線ヲ引ク可シ

第四 時間ニ從ヒ手數料ヲ受ク可キ職務施行ニ關スル調書ニハ執務時間ヲ明掲ス可シ殊ニ着手ノ日時及ヒ職務終了ノ日時並ニ執務ヲ停止シタルトキハ其停止ノ時間ヲ記載ス可シ

第五 臆本ニハ臆本タル旨ヲ記ス可シ又職務上ノ認證ナルハ認證ナル語ヲ付シ之ニ署名捺印ス可シ執達吏ハ必

第二十 臆本ト正本ト文字ノ符合シタルコトヲ確メタル上ニ非サレハ認證ヲ爲ス可カラズ

第六 正本及ヒ臆本ニ付キ執達吏ハ本則第百十一條ノ規定ニ從ヒテ費用ノ計算ヲ爲ス可シ

第十四條 官印ハ鄭重ニ之ヲ貯藏シテ職務上ニ限り之ヲ使用シ職務外ノ事件ニ用キルコトヲ許サズ

若シ執達吏職ヲ罷メタルトキハ直チニ區裁判所ニ官印ヲ返納ス可シ

第十五條 執達吏ノ職務上ノ通信ニシテ封緘ヲ要スルトキハ相當ノ封印ヲ捺ス可シ此封印ハ執達吏自費ヲ以テ之ヲ作ル可シ

第十六條 執達吏ハ職務黙秘ノ義務アルモノトス

第十七條 執達吏ハ強制執行ノ委任ヲ完結シ民事訴訟法第



第五百六十四條第二項の場合ヲ包含スルシタルトモ、債權者ヲ満足セシメタルト否トヲ問ハス執行ノ成績ヲ裁判所ニ届出ルノ義務アリ

第十八條送達ハ送達ノ可キ書類ノ正本又ハ認證シタル謄本又ハ普通ノ謄本ヲ交付シ其送達施行済ノ旨ヲ送達證書ニ記ス可シ(民事訴訟法第三百二十七條、第五百五十一條)則

第十九條書類送達ノ際遵守ス可キ手續ハ書類ノ旨趣及ヒ種類ニ關ハラズ總テ同一ニ之ヲ行フ可シ(第三百一十一條)則

第二十條執達吏ハ民事事件ニ關スル送達ヲ付テハ民事訴訟

訟法第三百三十六條乃至第五百五十一條ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲ス可シ

第二十四條 送達ノ委任ハ原告若クハ被告ヨリ又ハ其訴訟代理人ヨリ裁判所書記ヲ經テ之ヲ爲ス(通例トス(民事訴訟法第三百三十六條第二項))

裁判所書記ヲ經テ委任ヲ受ケタル執達吏ハ其事件ニ關シ殊ニ手数料ニ關シテハ直接ニ原告又ハ被告ヨリ委任ヲ受ケケタルモノト看做ス

第二十二條 執達吏ハ送達ヲ施行スル前ニ十分施行上ノ準備ヲ爲シテ障碍若クハ延滞ヲ生セシメ且送達ノ効力ヲ害セシメサルコトニ注意シ殊ニ左ノ諸件ヲ調査ス可シ

- 第一 書類ニ署名捺印アルヤ否ヤ
- 第二 認證ヲ要スル謄本ニ認證アルヤ否ヤ

第三 膳本ハ必要ナル員數ヲ具備スルヤ否ヤ（民事訴訟法第百八條）

第四 呼出狀ニハ期日及ヒ場所ヲ掲ケアルヤ否ヤ

若シ欠缺アル場合ニ於テ執達吏適宜ニ補充シ得ヘキモノナラトキハ自ラ之ヲ補フ可シ

第二十三條 執達吏ハ送達ヲ爲ス可キ書類ヲ受取タルトキハ二十四時内ニ送達ヲ爲ス可シ其住所外地ニ於テ送達ヲ爲ス可キトキハ遅クトモ三日ヲ過ク可カラス但別段ノ指定アルトキハ此限ニ在ラス

第二十四條 送達ハ何レノ地ヲ問ハス送達ヲ受ク可キ人ニ出會ヒタル地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得然レトモ此受取人カ其地ニ住居又ハ事務所ヲ有スルトキハ其住居又ハ事務

所ノ外ニ於テ送達ヲ受クルノ義務ナキモノトス

此場合ニ於テ本人送達ノ受取ヲ拒ムトキハ執達吏ハ必ス其住居又ハ事務所ニ就キテ送達ヲ爲サントルヲ得ス（民事訴訟法第百四十四號）

住居又ハ事務所ノ外ニ於テ送達ヲ施行セシトスルトキハ確實ニ書類ヲ交付シ且之ヲ受取ルニ適シタル場所及ヒ時機ヲ選ムコトヲ要ス

第二十五條 送達ハ之ヲ受ク可キ本人ニ爲スヲ通例トス訴訟能力ヲ有セサル原告又ハ被告ニ對スル送達ハ其法律上代理人ニ之ヲ爲ス可シ（民事訴訟法第百三十八號第一項）

公又ハ私人法人及ヒ其資格ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラルルモノトシ得ル會社又ハ社團ニ對スル送達ハ其首長又ハ事務擔

當者ニ之ヲ爲ス可シ若シ數人ハ首長又ハ事務擔當者ニ於  
場合ニ於テハ其一人ニ之ヲ爲スヲ以テ足ル民事訴訟法  
第三百三十八條第二項第三項)

豫備後備大軍籍ニ在ラサル下士以下ハ軍人軍屬ニ對ス  
ル送達ハ其所屬ハ長官又ハ隊長ニ之ヲ爲ス可シ(民事訴  
訟法第三百三十九條)

囚人ニ對スル送達ハ監獄署ノ首長ニ之ヲ爲ス可シ(民事  
訴訟法第四百十條)

第三十六條 送達ハ之ヲ受ク可キ人ニ爲ス能ハサル場合ニ  
於テハ民事訴訟法第四百十五條乃至第四百十八條ノ規定  
ニ從ヒ其他ノ者ニ之ヲ爲シ又ハ送達ス可キ書類ヲ市町村  
長ニ預置キ告知書ヲ作り之ヲ貼附ス可シ此場合ニ於テハ  
以下數條ノ區別ニ從テ取扱フ可シ

第二十七條 住居ノ外ニ事務所ヲ有スル人ニ對スル送達ヲ

爲ス場合ニ於テハ執達吏ハ通例先ニ其事務所(店舗其他  
營業場ノ類)ニ到ル可シ若シ此事務所ニ於テ本人其出會  
ハサルトキハ送達ハ其事務所ニ在ル營業使用人(番頭手  
代職工其他雇傭人ヲ包含ス)ニ之ヲ爲ス可シ(民事訴訟  
法第四百十六條ノ上段)

前項ノ手續ヲ爲シ能ハサル場合ニ於テハ執達吏ハ本人ハ  
住居ニ到ル可シ若シ此住居ニ於テ本人其出會ハサルトキハ本  
則第三十條乃至第三十二條ノ規定ニ從ヒ完結ス可シ

第二十八條 辯護士ニ對スル送達ヲ爲ス場合ニ於テハ執達  
吏ハ通例先ニ其事務所ニ到ル可シ若シ此事務所ニ於テ本  
人其出會ハサルトキハ送達ハ其事務所ニ在ル補助人又ハ  
筆生ニ之ヲ爲ス可シ(民事訴訟法第四百十六條下段)

前項ノ手續ヲ爲シ能ハサル場合ニ於テハ執達吏ハ辯護士  
 人住居ニ到ル可シ若シ此住居ニ於テモ出會ハサルトキハ  
 本則第三十條乃至第三十二條ノ規定ニ從ヒ完結ス可シ本  
 第二十九條 公又ハ私人及ヒ會社又ハ社團ノ法律上代  
 理人又ハ首長若クハ事務擔當者ニ對シ送達ヲ爲ス場合ニ  
 於テハ執達吏ハ通例其事務所ハ執務時間内ニ其事務所ニ  
 到ル可シ若シ此等ノ者ニ出會ハサルトキ又ハ此等ノ者カ  
 送達ヲ受取ルニ付キ差支アルトキハ送達ハ其事務所ニ在  
 ル他ノ役員又ハ雇人ニ之ヲ爲ス可シ(民事訴訟法第三百  
 十八條ハ第四百十七條)  
 前項ノ手續ヲ爲シ能ハサル場合ニ於テハ執達吏ハ此等ノ  
 者ノ住居ニ到ル可シ若シ此住居ニ於テモ出會ハサルトキ  
 第六本則第三十條乃至第三十二條ノ規定ニ從ヒ完結ス可シ

第三十條 本則第二十七條乃至第二十九條ニ掲ケタル以外  
 ノ者ニ送達ヲ爲ス場合ニ於テハ執達吏ハ通例本人ノ住居  
 ニ到ル可シ若シ此住居ニ於テ本人ニ出會ハサルトキ送  
 達ハ成長シタル同居ノ親族又ハ雇人ニ之ヲ爲ス可シ(民  
 事訴訟法第四百十五條第一項)  
 第三十二條 前條ノ規定ニ從ヒ送達ヲ爲シ能ハサルトキハ  
 執達吏ハ民事訴訟法第四百十五條第三項ハ規定ニ從ヒ書  
 類ヲ預置ク可シ(民事訴訟法第四百十五條第三項)  
 前項ノ場合ニ於テハ近隣ニ住居スル者二人ニ書類ヲ預置  
 タル旨ヲ告ケ且本人ニ速カニ通知ス可キコトヲ囑託ス可  
 シ又本人住居ノ戸ニ貼附スル告知書ニハ其預置タル場所  
 並ニ書類ヲ速カニ受取ル可キ旨ヲ明記ス可シ(民事訴訟  
 法第四百十五條)  
 第三十二條 本則第二十七條乃至第三十條ニ掲ケタル人ニ



第六百六十六條、第六百八十九條、第七百七條、第七百十條、第七百十五條、第七百二十七條及上本則第五十五條、第七十九條、第八十四條、第一百十條（百八十八條）第六百第三款（第六百三十一條）他ノ裁判事件ニ關スル送達ニ關スル事  
 第三十六條ニ刑事事件、非訟事件其他總テ裁判ニ關スル事件ニ付キ執達吏カ送達ヲ施行スルトキハ民事事件ニ關スル送達ノ規定ニ倣フ（刑事訴訟法第十九條）  
 第三十七條ハ裁判所書記之ヲ爲スル通例トス  
 第三十七條ハ執達吏ハ召喚狀ヲ送達ス可キ場合ニ於テ其召喚狀ニ記載シタル被告人ニ之ヲ送達ス可シ（刑事訴訟法第七十六條）若シ其本人住居ニ在ラサルトキハ務メテ其人ヲ搜索シテ之ニ送達ス可シ其人ノ所在不分明ナルトキハ民事事件ニ關スル送達ノ規定ニ倣フ

第三十八條ハ執達吏ハ囚人ニ對スル拘留狀ノ送達ヲ爲ス場合ニ於テハ其監獄署ノ吏員ノ立會ヲ受ケ之ヲ本人ニ送達スル（刑事訴訟法第八十四條）  
 （明治二十四年十月二十日司法省參刑第三八四號ヲ以テ本條改正）  
 執達吏ハ送達ニ關シ囚人ト交通ヲ爲スニ付テハ總テ監獄則ノ規定ニ違背セサルコトヲ要ス  
 （參照）刑事訴訟法第八十四條在監中ノ被告人ニ對シ發シタル拘留狀ハ司獄官吏ヲシテ之ヲ執行セシム（三十二年法律第七十三號ヲ以テ本條改正）  
 第四款ハ裁判外ノ非訟事件ニ關スル送達  
 第三十九條ハ執達吏ハ裁判外ノ非訟事件ニ付テモ關係人ノ委任ニ依リ送達ヲ爲ス可シ（例ハ民法財產編第四百十  
 執達吏職務細則

五條以下ノ規定ニ於ケル貸貸借解約申入ノ告知又ハ同法  
 第七十六條第七十七條ノ規定ニ於ケル土地權者ノ豫  
 告若クハ催告又ハ同法第四百七十四條以下ノ規定ニ於ケ  
 ル提供ニ關スル送達又ハ商法第二百十二條以下ノ規定ニ  
 於ケル株金拂込付テ通知若クハ催告ノ類) (三十三條  
 右送達ハ民事事件ニ關スル送達ノ規定ニ倣又可シ  
 第三節 民事事件ニ付テノ強制執行

第四十條 第一款 關シテ通人則

第四十條 民事事件ニ付テノ強制執行ヲ實施スル

モノトス但法律上執行行為ヲ裁判所ニ任セタメテ此

限ニ在ラス(本則第四十一條、第四十二條)

執達吏ハ委任ヲ受ケタル強制執行ヲ實施スルニ當リ獨立

第三節 處分ヲ爲ス可キモノトス此處分ヲ爲スニ付テハ裁判

所ノ監督ヲ受ケルト雖モ直接ノ指揮ヲ受ケルコトナシ  
 但不動産及ヒ船舶ニ對スル強制執行ハ此限ニ在ラス  
 民事事件ニ付テハ強制執行ト稱スルハ訴ヲ起シテ裁判ヲ  
 受ケタル事件ノ目ナラズ債權者ノ請求ニ付テ訴訟手續ヲ  
 經スル民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ債務者ニ對シ強制執行  
 テ執行ト爲サシム可キ場合ヲモ包含スルモノトス(例  
 ハ民事訴訟法第五百五十九條ノ規定ニ於テ公證人ノ作  
 リタル證書又ハ和解同法第八百條及ヒ第八百二條ノ規定  
 ニ於ケル仲裁人ノ判斷ノ類)

第四十一條 執達吏ノ職務範圍内ニ屬スル強制執行ハ左  
 如シ

第一ニ金錢ノ債權ニ付テハ有體動産ニ對スル強制執行

民事訴訟法第五百六十四條乃至第五百九十二條

八三

執達吏職務細則

右ノ有體動産中ニ以記名證券、無記名證券、株券其他  
 此ニ類スル有價證券ヲ包含ス（本則第七十五條）  
 爲替手形、約束手形、其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ  
 得ル證券ニ依ル債權（本則第七十五條）ハ差押之場  
 合ニ於テハ有體動産トシテ之ヲ取扱フモノトス（民  
 事訴訟法第六百三條）  
 第二種金錢ノ債權ニ付テハ不動産及ヒ船舶ニ對スル強  
 制執行ニシテ裁判所ヨリ命セラレタル職務ハ民事訴  
 訟法第六百四十二條、第六百五十九條、第六百六十  
 三條乃至第六百六十九條、第七百三條乃至第七百五  
 條及ヒ第七百十七條以下）  
 第三種動産不動産及ヒ船舶ノ引渡若クハ明渡ヲ爲ケシ  
 可キ強制執行（民事訴訟法第七百二十條、第七百三

十一條

第四 執達吏ノ職務ニ屬スル範圍内ニ於ケル假差押及  
 假處分ノ執行（民事訴訟法第七百二十七條乃至第  
 七百六十三條）

此他執達吏ハ債權ニ對スル強制執行ニ關シ本則第八十三  
 條乃至第八十五條ニ定メタル共力ヲ爲ス可キモノトス  
 第四十二條 執達吏ハ法律上裁判所ニ任セタル強制執行ヲ  
 實施スルコトヲ得ス此場合ニ於テ當事者カ執達吏ニ之ヲ  
 委任スルトキハ執達吏ハ裁判所ニ其申立ヲ爲ス可キ旨ヲ  
 諭示ス可シ  
 左ニ掲クル強制執行ハ裁判所ニ任セタルモノトス  
 第一 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行ニシテ左ニ掲クル  
 モノ



(イ) 不動産（民事訴訟法第六百四十條乃至第七百十  
六條）及船舶（民事訴訟法第七百十七條乃至第七  
百二十九條）ニ對スル強制執行

（ロ）債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行（民事訴  
訟法第五百九十四條乃至第六百三十五條）但前條  
第四十二條第一號ノ第二項第三項ニ掲ケタル場合ハ此限ニ在

第二行爲ヲ爲サシムル爲メノ強制執行（民事訴訟法  
第七百三十三條乃至第七百三十六條）

第四十三條 強制執行ノ委任ハ債權者（裁判所書記ヲ經ス）  
自ラ之ヲ爲スヲ通例トス  
然レトモ債權者ハ強制執行ヲ委任スル爲メ執達吏所屬  
區裁判所書記ノ補助ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ執

達吏ハ各執行行爲殊ニ取立テタル金錢ノ引渡ニ關シテハ  
債權者ヨリ直接ニ委任ヲ受ケタルモノト看做ス債權者訴  
訟ニ付キ書面委任ヲ以テ辯護士又ハ其他ノ者ニ訴訟代理  
ヲ委任シタルトキ訴訟代理人ハ其代理ノ繼續中執達吏ニ  
強制執行ノ委任ヲ爲ス可キ權アルモノトス然レトモ執達  
吏ハ取立テタル金錢其他ノ物品ヲ訴訟代理人ニ引渡サザ  
ル又通例トス之ヲ引渡スニ付テハ債權者明カニ其旨ヲ求  
ムルカ又ハ代理人ノ得タル書面委任ニ其旨ヲ明記シアル  
トキニ限ル但相手方ヨリ辨濟又可キ訴訟費用ハ訴訟代理  
人其訴訟委任中ニ於テ之ヲ領收スル權アルヲ以テ執達吏  
ハ之ヲ引渡スコトヲ得ルモノトス（民事訴訟法第六十五  
條）

執達吏職務規則

債權者ノ特別ナル陳述ナキモ支拂及ヒ其他ノ給付ヲ債務者ヨリ領收シ其領收シタルモノニ對シ受取證ヲ出シ及ヒ債務者完ク義務ヲ履行シタルトキ債務名義執行ノ基本トナル可キ證書ノ執行力アル正本ヲ引渡ス可キ委任ヲ包含スルモノトス故ニ執達吏ハ債務者及ヒ第三者ニ對シ執行力アル正本ヲ所持スルコトヲ必要トシ且強制執行ヲ實施シ及ヒ其實施ノ爲メ必要ナル總テノ行爲ヲ爲スニ十分ナル證據ヲ備フルコトヲ必要トス執達吏強制執行ヲ實施スルニ當リ債務者及ヒ第三者ノ求アルトキハ右諸件ヲ具備スルコトヲ示シテ其資格ヲ證ス可シ

若シ債權者強制執行ニ立會フコトヲ求ムルトキハ執達吏ハ其債權者ノ立會アルニ非ザレバ強制執行ヲ施行スルコトヲ得ス

第四十四條 強制執行ハ債務名義ノ執行力アル正本ニ基テ

ノミ之ヲ爲スモノトス  
此正本ハ必ス「前記ノ正本ハ被告某若クハ原告某ニ對シ強制執行ヲ施行スル爲メ原告某若クハ被告某ニ之ヲ付與ス」トノ式ヲ以テ執行文ヲ作り且署名捺印アルヲ要ス

(民事訴訟法第五百十七條)

執行力アル正本ハ裁判所書記之ヲ付與スルヲ通例トス  
(民事訴訟法第五百十六條) 公證人ノ作りタル證書ニ付テハ公證人付與スルコトヲ得(民事訴訟法第五百六十一條)  
執達吏ハ何レノ場合ニ於テモ注意ヲ爲シ適法ノ執行文ヲ記載シアルヤ否ヤヲ確カムルコトヲ要ス  
執行文ニ於テ其制限ヲ命シ殊ニ強制執行ヲ受ク可キ物又ハ取立ツ可キ債權額ニ付キ制限ヲ命シタル片ハ執達吏ハ

其制限ニ從テ執行ヲ爲ス可シ  
 第四十五條 執達吏ハ委任ヲ爲シタル債權者ノ氏名ヲ執行文中ニ表示セラレ且執行ヲ受ク可キ債務者ノ氏名ヲ執行名義若クハ執行文中ニ表示セラレタルトキハ強制執行ヲ始ムルコトヲ得若シ然ラサルトキハ執達吏ハ執行ニ着手スルコトヲ得ス  
 委任者ニ於テ承繼ニ因リ指名シタル債權者ノ位置ヲ自ラ占ム可キコト又ハ第三者ヲシテ指名シタル債務者ノ位置ニ當ラシム可キコトヲ主張スルトキハ執達吏ハ更ニ執行文ヲ求メシムル爲メ委任者ヲ受訴裁判所ニ移ス可シ  
 民事訴訟法第五百十九條第五百二十條第五百二十一條  
 債務者死去ノ際既ニ之ニ對シテ開始シタル強制執行ハ其遺産ニ對シテ繼續スルモノト爲ス時行ハテハ五本ニ基キ

第四十六條 督促手續ニ依リ發シタル執行命令(民事訴訟法第三百九十三條)并ニ假差押及ヒ假處分ノ命令(民事訴訟法第七百四十三條第七百五十六條)ノ正本ハ執行文ヲ要セス執行ヲ爲スコトヲ得  
 執行命令又ハ假差押及ヒ假處分ノ命令ニ於テ指名セザル者ハ爲メ若シ指名セザル者ニ對シテハ執達吏ハ更ニ其者ヲ指名シタル執行文ヲ付トキハ限リ債務名義ヲ執行スルコトヲ得(民事訴訟法第五百六十一條第七百四十九條)  
 第四十七條 外國裁判所ノ判決ニ付テハ執達吏ハ本邦ノ裁判所ノ執行判決及ヒ裁判所書記ヨリ付與シタル執行文ニ依ルトキニ限リ執行ヲ爲スコトヲ得(民事訴訟法第五百四十四條第五百十六條)  
 其手續

第四十八條 執行裁判所ハ執行ヲ爲ス可キ地又ハ其手續ニ着手シタル地ノ管轄區裁判所ナリトス此裁判所ハ執達吏カ強制執行ヲ實施スルニ付テ行爲ニ對スル申立及ヒ異議ヲ裁判ス(民事訴訟法第五百四十四條)

第四十九條 執達吏ハ總テノ場合ニ於テ執行力アル正本ハ條件到來以前ニ付與セラルモ其條件ノ到來シタル後若シ非シハ強制執行ヲ實施ス可ラカカ如キ條件付テモ若シ精密ニ調査シテ自ラ之ヲ確カムルノ義務アルモノト故ニ執達吏ハ執行力アル正本ヲ得ルトモ直ニ強制執行ニ着手シ能ハサルコトアルベシ  
左ニ掲タル諸件ハ殊ニ注意ヲ要ス(第六節)ハ五本ハ持テ  
第一 債務名義ニ因リ日時ノ到來スルニ非カレハ請求  
第二 生セザル場合ニ在テハ執達吏ハ其日時ノ滿了後強

制執行ヲ始ムルコトヲ得可シ (民事訴訟法第五百二十九條第一項)

第二 債務名義ニ於テ其執行ハ債權者ヨリ債務者ニ保  
證立テタル後ニ之ヲ爲ス可キ場合ニ在テハ執達吏  
ハ債務名義ニ開示シタル保證額ヲ供託シタル公正及

證明書ヲ得タル後強制執行ヲ始ムルコトヲ得可シ  
(民事訴訟法第五百二十九條第二項)

第三 豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シ  
強制執行ヲ爲スヘキトキハ其上班司令官廳ニ通知ラ  
爲シタル後強制執行ヲ始ムルコトヲ得可シ (民事訴

訟法第五百三十條及ヒ本則第八十條)  
債權者自ラ右官廳ニ通知ヲ爲シタルトキハ執達吏ハ  
其證書ヲ債權者ヨリ差出サシム可シ(第五節)

第四條 執達吏は總テ強制執行ヲ始ムル前左ノ證書ヲ債  
 務者ニ送達シタルヤ否成ヨ調査ス可シキハ該債主ハ  
 不強制執行ノ基本トシテ可キ債務名義(判決、公正証  
 書等)ハ對照簿ヲ檢シテ其ハ否成ヨ(民事補  
 償) 判決ノ旨趣ニ依リ事實ニ到來スルニ非カレニ執行  
 (送達) 爲スコトヲ得サル場合又ハ債權者若クハ債務者  
 爲シテ承繼(相続)ヲ包含スルヲ爲シタル場合ニ於テハ執  
 行文又證明書ニ依リ執行文ヲ付與シタルトモ其  
 送證書又謄本(民事訴訟法第五百二十八條)ハ持込吏  
 第二條ノ手續權者カ保証立シテ非サザル執行文  
 十爲シテ得サル場合(第二號)ニ於テハ執行文ノ  
 同送達ヲ要セズ(民事補償) (民事補償) 第五百二

第二號ノ場合ニ於テハ保証ヲ立テタル公正ノ證明  
 書ノ謄本  
 正百三 右證書(イ、ロ)ヲ未タ送達セサル場合ニ於テハ執  
 達吏ハ其送達ヲ爲シタルト同時ニ強制執行ヲ始メ  
 第五條 破産手續續行中ニハ破産債權者ハ爲シ破産者  
 財產ニ付テ差押又ハ強制執行ヲ爲スルコトヲ得ズ其  
 第五十條 執達吏強制執行ヲ始メ得ル時至ル小キハ速ニ其  
 目的ヲ達ス可キ方法ニ從テ直チ強制執行ヲ始メ其費  
 要ヲ然レトモ其強制執行ヲ爲スカ爲メ債務者ニ損害ヲ  
 被ラシム可カラズ  
 執行ノ際債務者ニ出會ヒタルトキハ執達吏ハ其執行手續  
 執達吏職務細則

手ネルニ先チ債務者ニ任意ノ辨償ヲ催告ス可シ若シ債務者ニ出會ハスシテ親族ニ出會ヒルタトキハ其親族ニ之ヲ催告ス可シ其親族時行マシメテ其親族ニ出會ヒルタトキハ其親族ニ之ヲ催告ス可シ其親族時行マシメテ其親族ニ出會ヒルタトキハ其親族ニ之ヲ催告ス可シ

右ノ催告ニ因リ爲シタル任意ノ辨償又時其ニ辨償ハ執達吏之ヲ受取リ且之ヲ債權者ニ引渡ス可シ其債權者及ヒ債務者ノ願望ニ任ストキハ之カ爲メ無要ノ費用及ヒ混雜ヲ生スルコトナク且執行ノ目的ヲ害セス其願望ヲ達シ得ヘキ場合ニ限り相當ノ斟酌ヲ爲ス可シ

強制執行ヲ爲スニ當リ必要ナル場合ニ於テハ執達吏ハ威力ヲ用ユ可シ此場合ニ於ケル手續ニ付テハ民事訴訟法第五百三十六條、第五百三十七條ノ規定ニ從フ可シ

債務者ノ閉鎖シタル戸扉及ヒ筐匣ヲ開カシムルニ必要ナル場合(民事訴訟法第五百二十六條第一項)ニ於テハ執達

吏ハ之ヲ開クニ付キ損害ヲ避クル爲メ相當ナル職工ヲ用ユ可シハ其職工ハ一週ヲ越セズトシテ其職工ハ民事訴訟法第五百三十七條ノ規定ニ從フ可シ

其事件無關係ナル場合ニ於テハ其職工ハ民事訴訟法第五百三十七條ノ規定ニ從フ可シ

第五十二條ニ執達吏ハ強制執行ノ實施ト同時ニ強制執行ノ費用ヲ債務者ニ有体動産ヨリ取立タシムルモトトシ其費用ニ殊ニ執達吏ノ手数料、立替金、執行力アル正本付與ノ費用及ヒ強制執行ニ付キ債權者ノ受取ル可キ裁判外ハ必要ナル費用ニ包含ス又民事訴訟法第五百五十四條民事訴訟費用規則第十六條前但金錢債權ニ對スル強制執行ト其他才強制執行トニ依リ區別ナクモトトシテ其費用ニ關スルハ第五十二條ニ執達吏ハ總テハ執行行爲ニ付キ調書ヲ作ル可

第四十一條ノ規定ニ從フ可シ此調書ニハ執行ニ關スル總テ  
 ノ命令ヲ記載シ又債權者ヲ満足セシムルコト能ハサルト  
 キハ總テ適法ナル方法ニ依リ債權者ヲ満足セシム可キ点  
 中ヲ試ミタルモ其目的ヲ達セサリシコトヲ調書ニ於テ明  
 確ニスルコトヲ要ス  
 調書ハ執行行為ト同時ニ之ヲ作り且成ル可ク其行為ヲ爲  
 業シタル地ニ於テ之ヲ作ル可シ  
 第五十三條ニ執達吏ハ債務者又ハ第三者ノ異議アルモ執行  
 ヲ停止ス可カラズ債權者ノ申出ナキモ例外ヲ以テ其執行  
 ヲ停止ス可キ場合又ハ既ニ爲シタル執行處分ヲ取消ス可  
 ク若クハ其處分ヲ一時保持ス可キ場合ニ付テハ民事訴訟  
 法第五百五十條及ヒ第五百五十一條ノ規定ニ從フ可シ

強制執行ヲ實施セザリシトキト雖モ其顛末ニ關スル調書  
 ヲ作り此調書ニハ執行停止ノ基本ト爲リタル書類ヲ明細  
 ニ記載シ且其事項ニ關スル命令ヲ記入ス可シ  
 執行停止又ハ制限ハ債權者ニ之ヲ通知ス可シ  
 強制執行ノ停止又ハ制限ニ關シテハ右ノ外尙ホ左ノ諸件  
 ヲ遵守ス可シ  
 第一 民事訴訟法第五百五十條第一號ノ規定ニ從ヒテ  
 ハ裁判ニ依リ債務者ニ於テ強制執行ノ停止又ハ制限  
 ヲ求ムルトキハ執達吏ハ其裁判ノ執行ヲ爲ス可キモ  
 ノナルヤ否ヤニ付キ調査ス可シ  
 執行ヲ爲スコトヲ得ヘキ裁判トハ仮執行ノ宣言ヲ付  
 シタル裁判又ハ確定シタル裁判ヲ云フ  
 上告審タル控訴院及ヒ大審院ノ爲シタル判決ハ證明

書(民事訴訟法第四百九十九條)ヲキモ確定力ヲ有  
然レトモ右判決カ關席判決場合ニ於テハ其確定  
力ハ證明書アルヲ要ス  
抗告審ニ於テ爲シタル裁判又ハ假執行ノ判決若クハ  
其假執行ヲ取消シタル裁判其何レハ場合ニ於テモ強  
制執行ヲ停止ヲサヌヲ理由  
第二 民事訴訟法第五百五十條第二號ノ場合ニ於テ或  
モ該法時間ヲ限リ一時ノ停止ヲ命シタルトキハ右時間ノ  
間滿了後強制執行ヲ繼續ス可シ  
第三 民事訴訟法第五百五十條第四號ニ掲ケタル義務  
ニ違フ履行ハ猶豫ヲ承諾シタル場合ニ於テ更ニ債權者ヨリ  
モ請求狀附キハ再ニ強制執行ヲ繼續ス可キ  
第五十四條 債權者ノ申出アルトモ執行吏ニ其申出ニ從

ヒ何時タリトモ其強制執行ヲ全ク停止シ又ハ之ヲ制限ス  
可キモノトス此申出ニ付テハ債權者ノ書面上ノ陳述又ハ  
執達吏ニ口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其調書上ノ  
陳述ハ之ヲ記録ニ添附ス可シ  
執達吏ハ一時停止ノ場合殊ニ延期ノ場合ニ於テハ債權者  
ヨリ一定ノ期日ヲ指定セザリシトキハ執行再始ニ付キ債  
權者ノ再度ノ申出ヲ待ツ可キモノトス一定ノ期日ヲ指定  
シタル場合ニ於テハ右期日到来後直チニ其強制執行ヲ繼  
續ス可キモノトス  
第五十五條 執達吏ノ別段ノ規定ナキトキト雖モ債權者及  
ヒ債務者ノ利益ヲ保存スルニ必要ナリト認ムルトキハ強  
制執行ノ完結ヲ債權者及ヒ債務者ニ通知ス可シ  
右通知ヲ爲シタルコトノ證明ハ法律上之ニ關スル別段ノ



規定ヲキトキニ限リ記録中ニ爲シタル執達吏ノ簡單ナル記載ヲ以テ足レシテ其ノ職務ニ關スル事項ハ其ノ規定ヨリ第百九十三條ノ有體動産ニ對スル強制執行ハイキハ此ノ規定ニ從ヒ差押及ヒ換價ニ依テ執達吏之ヲ爲スモノトス

第五十六條 有體動産ニ對スル金錢ノ債權ニ付テハ強制執行ハ民事訴訟法第五百六十四條乃至第五百九十三條ノ規定ニ從ヒ差押及ヒ換價ニ依テ執達吏之ヲ爲スモノトス

第五十七條 強制執行ヲ爲ス執達吏ハ其債務者ノ住居ニ於テ本大ニ出會ヒタルトキ任意辨償ヲ爲シテ債權者ヲ満足セシム可キ催告ヲ爲スモ其効ヲ見サル場合ニ於テハ執行ノ目的ニ必要トスル限度ニ於テ債務者ノ住居、倉庫ノ戸扉及ヒ鑰匣ヲ開キ且債務者ノ財産ヲ點檢ス可シ

債權者ノ利益ヲ損傷スル恐ナキトキハ債務者ノ陳述ヲ斟酌シ債務者ニ於テ最モ放テ易キ財産中殊ニ金錢、有價証

券及ヒ金銀物等ノ如キ容易ニ運搬シ得ヘキ物ニ付キ差押ヲ爲ス可シ

強制執行ニ際シ如何ナル有價証券ハ有體動産ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ取扱フ可キヤハ本則第七十五條ノ規定ニ從フ可シ若シ現在スル有價証券ヲ有體動産中ニ加フ可キコトニ付キ疑アルトキハ執達吏ハ債權者ノ債權ヲ償フニ十分ナル他ノ物ナキ場合ニ限リ假ニ其有價証券ヲ差押フ可シ

過當ノ差押ヲ避クル爲メ執達吏ハ差押ヲ爲ス可キ物ヲ調査シ記載ナルニ當リ其各物ニ付キ概算ノ價額ヲ記入シ且差押物ノ賣得金ヲ以テ債權者ニ辨償シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ル可キ額ヲ標準トシテ差押ノ範圍ヲ定ムル

第百九十三條ノ有體動産ニ對スル強制執行ハイキハ此ノ規定ニ從ヒ差押及ヒ換價ニ依テ執達吏之ヲ爲スモノトス

第五十八條 執達吏ハ債務者ノ財産中如何ナル物ハ民事訴訟法第五百七十條ノ規定ニ依リ差押ヲ可カラサルヤ否ヤニ關シ之ヲ判別ス可シ債權者ヲ満足セシムルニ足ラサルヲ恐ナキトキハ其差押ヲ爲スニ付キ疑アル物ヲ差押ヲ可カラス

差押ヲ可カラサル物ノミナルカ又ハ全ク價值ナキ物ノミナルカ又ハ其物ヲ賣却スルモ強制執行ノ費用ヲ償ハテ剩餘ヲ得ル見込ナキ(民事訴訟法第五百六十四條第三項)カ爲メ差押ヲ爲サル場合ニ於テハ執達吏ハ其物ノ種類、性質及ヒ價值ノ概況ヲ調査シ記シテ之ヲ差押ヘタルハ適當ナルコトヲ證シ置ク可シ高價ノ物又ハ當然差押ヲ可キ物及ヒ差押ヲ爲スニ疑アル物ニ付テハ常ニ其各物ヲ詳細ニ記載シ其他ノ物ニ關シテハ該物ノ種類ヲ記シ法律上差

押ヲ可カラサル物ナル旨ヲ證スルヲ以テ足ル

執達吏ハ如何ナル場合ニ在テモ債務者ニ於テ辨濟資力ヲナキコト又ハ差押ヲ可カラサル財産ノミナルコト又ハ差押ヲ可キ財産ノ價值ハ強制執行ノ費用ヲ償ヘテ足ラサルコト等ハ簡約ナル記載ヲ以テ足レサトスルコトヲ得

第五十九條 差押ノ際債務者ノ占有スル財産ニ付キ債務者ヨリ第三者ノ爲メニ請求ヲ爲シ又ハ第三者ヨリ請求ヲ爲スコトアルモ執達吏ハ之カ爲ニ其差押ヲ止ムルコトヲ得ス然レトモ其要求ヲ其財産ノ或ル一分ニ付テ爲シタルハ其ハ執達吏ハ之ヲ差押ヘサルモ債權者ノ利益ニ影響ヲ及ボサ

物ヲ除キ他ノ物ヲ以テ債權者ヲ満足セシメ且強制執行ノ費用ヲ償フニ足ル可キトキニ限リ其請求ニ係ル物ノ差押

又止ムルコトヲ得執達吏ハ如何ナル場合ト雖モ債權者外  
 諭告アルトキハ其諭告ヲ遵守ス可キモノトス  
 債權者ヲ満足セシメ及ヒ強制執行ノ費用ヲ完償スルカ爲  
 メ如何ナル部分ニマテ差押ヲ擴張ス可キモノノ判斷ヲ爲ス  
 ニ當リ執達吏ハ成ル可ク申出テタル請求ヲシテ成立シム  
 ルコトニ注意ス可シ  
 請求ヲ申出アリタル物ヲ差押タルトキハ執達吏ハ其請求  
 ヲ裁判所ニ依リ主張ス可キコトヲ第三者ニ諭示シ(民事  
 訴訟法第五百四十九條、第五百六十五條及ヒ第五百四十  
 七條)且必要ナリト認ムル場合ニ於テハ請求ノ申出ヲ債  
 權者ニ通知ス可シ  
 第六十條 民事訴訟法第五百六十六條ノ規定ニ從ヒ債務者  
 不占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ

之ヲ爲ストキニ限リ其効アルモノトス  
 執達吏ハ右ノ目的ヲ達スル爲メ債務者ヨリ其物ヲ取上ル  
 且本則第六十五條ニ於ケル例外ノ規定ニ從フ可キ場合ノ  
 外ハ債務者ノ占有ヲモ引離ツ可シ  
 執達吏ハ差押ヘタル物ノ貯藏及ヒ保管ヲ爲シ又必要ナ  
 ル場合ニ於テハ換價スルマテ其物ヲ保全スルノ義務ア  
 ル  
 若クハ保存人ノ任命ニ關シ無益ナル費用ヲ來サ、ルコト  
 及右保存人等ヲシテ規定ニ背戾セシメサルコトノ責ニ任  
 スルモ外トス  
 差押物ノ貯藏ニ關スル處分ハ差押調書中ニ之ヲ記載ス可  
 其

第六十一條 差押金錢ハ遅クトモ差押ヲ爲シタル日ヨリ二日以内之ヲ債權者ニ引渡シ又ハ供託ヲ爲サシムルヲ得ル場合ニ於テハ之ヲ供託ス可シ(本則第九十六條)其引渡若クハ供託ヲ爲スマテ本則第十條ノ規定ニ從ヒ之ヲ保存ス可シ

第六十二條 執達吏ハ差押物貯藏所(本則第十條)ニ於テ貯藏保存スル爲メ費用ヲ要スル場合ニ限り其實費トシテ相當ナル金額ノ豫納ヲ爲サシムルコトヲ得

差押物貯藏所ニ保存シタル物ニ付テハ事件ノ番號ヲ附シ他人ノ執行ニ屬スル物ト區別ヲ爲シテ混雜ヲ生セサルコトニ注意ス可シ

貯藏スルニ適當ナル差押物ヲ執達吏ノ住所地ニ於テ差押スルハトキハ差押物貯藏所ニ之ヲ保存スルヲ通例トス

其住所地外ニ於テ差押スル物ニ付テハ執達吏ハ其事情殊ニ將來競賣ヲ爲ス可キ土地ノ關係ニ依リ之ヲ差押物貯藏所ニ運搬スルニ適當トスルハ本則第六十條ノ規定ニ從ヒ之ヲ保存ス可シ

第六十三條 差押物貯藏所ヲ有セサル者又ハ之ヲ有スルモ差押物貯藏所ニ依リ又ハ其他ノ理由殊ニ執達吏ノ住所地外ニ於テ差押ヘタル物ニ付キ之カ爲メ許多ノ費用ヲ増加スルニ依リ在來貯藏所ニ使用ス可キ所カ若クハ之ヲ使用スルニ利益ナルトキニ於テハ其差押物ハ差押ト爲シタル土地ニ往居シテ信用アリ且辨償能力アリ者ニ託シテ保存ヲ爲サシム可シ

委託ヲ受ケタル者ハ其請求依リ委託物ノ目録書領收本其保存ニ關シテ報酬ハ或ハ可ク前以テ之ヲ確定ス可シ

第六 執達吏は保存を爲す委託シタル物ヲ確收シタル旨ノ證書  
 日ヨリ保存人ヨリ受取り又保存人ノ求ニ因リ該證書ハ謄本ヲ  
 交付ス可シ  
 必要ナル場合ニ於テハ保存人任命ニ關スル調書ヲ作法之  
 又差押調書ニ添附スルモノトスニ就テハ其差押調書ハ蓋印  
 第六 此調書ニ於テ左ノ諸件ヲ掲げ且保存人ハ署名捺印セザル可  
 第六 第三 保存を爲す交付シタル物ノ記載  
 第六 第四 高價物(金銀物ヲ包含ス)及有價證券並他人  
 其封及此ニ物ノ名稱及ヒ事件ノ番號ヲ記載ス可シ其事件

第六十五條 民事訴訟法第五百六十六條第二項ノ規定ニ從  
 ヒ執達吏又差押物ヲ債務者ノ保管ニ任スコトヲ得ルハ左  
 ノ場合ニ限ル  
 (イ) 債權者ノ承諾アルトモ對該債權者ノ見及ニ對シテ  
 (ロ) 運搬ヲ爲スニ付キ重大ナル困難アルトキ  
 右ノ場合ニ於テモ執達吏ハ封印又ハ其他ノ方法ヲ以テ差  
 押ヲ明白ニス可シ  
 此場合ニ於テハ尙ホ左ノ事項ヲ遵守ス可シ  
 第一 債權者ノ承諾ニ付テハ債權者ノ書面又ハ口頭陳  
 述ノ書取又ハ執達吏ノ執行記録ニ記載ヲ以テ之ヲ明  
 確ニス可シ  
 第二 封印又ハ其他ノ方法ヲ爲スニハ各差押物毎ニ其  
 執達吏職務細則  
 一一一

第六十五條 差押物は其目的を達スル場合若し差押物毎  
 封印区可キカ又ハ其物ノ存在スル筐匣、室、倉庫等  
 他ノ事情ヲ從テ之ヲ定ム可シ蓋匣、室、倉庫等ノ性質  
 此封印タル場合ニ於テ其封印又ハ筐匣等ヲ損傷スル  
 非サルニ其差押物ヲ取出シ得サルコトニ注意ス可  
 差押物ノ性質ニ依リ封印ヲ爲シ得可カラサルカ又ハ  
 差押物ノ標目ヲ附シ得サル場合ニ於テハ執達吏ノ署  
 名シテ其告示ヲ差押物ニ接近セシ各人ノ見易キ場所  
 合貼附スルカ又ハ他ノ適當ナル方法ヲ以テ各人ニ之  
 知ラシメ得可キ場合ニ於テ必要ナル認公  
 第六十五條ハ其管理人ヲ任命ス可シ第六條第二項ノ規定ニ  
 準

第三 執達吏ハ差押物ノ占有已ニ歸ルル旨及ヒ債務  
 者其物ヲ處分シ若クハ封印ヲ破壊シ爲メニ法律上ノ  
 罰ヲ受クルコトナキ様注意ス可キ旨ヲ債務者ニ諭示  
 第四 差押調書ニハ差押物ヲ債務者ニ保管ニ任セタル  
 理由封印ノ數及ヒ其差押人告示並ニ保全ヲ爲ス爲シ  
 タル處分ヲ記載シ且第三號ノ規定ニ從ヒ債務者ニ諭  
 示スル旨ヲ記載ス可シ  
 第六十六條 第三者ノ占有中ニ在リテ債務者ニ屬スル物  
 差押ヲ價權者ヨリ求ムルトキハ執達吏ハ先ツ第三者ニ對  
 シテ其物ヲ直チニ引渡シ得ルヤ否ヤヲ詢問ス可シ  
 第三者之ヲ承諾スルトキハ債務者ノ占有スル物ヲ差押ス  
 ルト同一ノ方法ヲ以テ差押ヲ爲ス可シ（民事訴訟法第五  
 條）

百六十七條

若シ第三者カ物ノ提出ヲ拒ミ又ハ執達吏ノ之ヲ占有スルニ付キ異議ヲ述フルトキハ執達吏ハ其事實ノ調書ヲ作ルニ止リ爾后ノ處分ハ債權者本人ニ任ス可シ  
債權者ノ占有中ニ在リテ債務者ニ屬スル物ノ差押ヲ債權者ヨリ求ムルトキハ執達吏ハ通常ノ手續ニ依リ直チニ差押ヲ爲ス可シ(民事訴訟法第五百六十七條)

第六十七條

債權者又ハ第三者ノ占有中ニ在ル物ヲ差押ヘタルトキハ執達吏ハ民事訴訟法第五百四十一條ノ規定ニ從ヒ差押ヲ施行シタル旨ヲ債務者ニ通知ス可シ

第六十八條

差押ニ付キ作ル可キ調書(民事訴訟法第五百四十條)ニハ尙ホ左ノ諸件ヲ掲ク可シ  
第一 各物ノ概算價額ヲ附シタル差押物ノ詳細ナル記

載又必要ナル場合ニ於テハ員數、尺度、重量等ノ記載

第二

執達吏差押物ヲ占有シタルコトノ記載

第三

保存ノ際爲シタル處分ノ記載

第四

債務者ニ差押ヲ通知シタルコト及ヒ如何ナル方法ヲ以テ通知ヲ爲シタルヤ(民事訴訟法第五百四十一條)ノ記載

第五

競賣期日ノ日時場所若シ此期日ヲ直チニ定ムル

コトヲ得サルトキハ其理由ノ記載

右記載ノ外調書ニハ差押ノ各種ノ方法又ハ差押ノ際特別ノ事件ニ付キ別ニ規定シタル事項ヲ記載ス(本則第五十三條、第五十八條、第六十五條第四號)又調書ヲ作リタル後其謄本ヲ債務者ニ送達シタルトキハ調書ノ附録トシテ其旨ヲ附記ス可シ

第六十九條 差押物ノ換價ハ更ニ債權者ノ委任ヲ待タス執達吏面チニ民事訴訟法第五百七十二條乃至第五百八十四條ノ規定ニ從ヒ之ヲ爲ス可シ  
 差押物中高價ノ物アルトキハ執達吏ハ先ツ適當カニ鑑定人ヲシテ之ヲ評價セシム可シ執達吏ノ調書ニ右評價ヲ記載セサルトキハ鑑定人ヲシテ其評價書ヲ作ラシム可シ  
 執達吏ハ差押物ヲ競賣ニ付スルトキハ他人ノ方法ヲ以テ適宜ニ賣却スルトキハ問ハス自ラ之ヲ買取り又ハ家族若クハ他人ニ依テ之ヲ買取り又ハ他人ノ爲メニ之ヲ買取ラシムルコトヲ許サス又執達吏ハ競賣補助人ノ爲メ立會ハシメタル者ヲシテ競賣ニ加ラシムルコトヲ許ス可カラス

第七十條 執達吏差押物ヲ賣却スルキハ民事訴訟法第五百七十二條乃至第五百七十八條ノ規定ニ從ヒ競賣ノ方法ニ

依ル可シ但特別ノ場合ニ於テ競賣ノ方法ニ依ラヌシテ換價スルキハ本則第七十四條ノ規定ニ從テ可シ  
 競賣ハ差押ヲ爲シタル市町村ニ於テ之ヲ爲ス可シ但差押債權者及ヒ債務者カ他ノ場所ニテ之ヲ爲スコトヲ合意シタルトキ又ハ執行裁判所ヨリ競賣ノ場所ヲ指定シタルトキハ其場所ニ於テ之ヲ爲ス可シ  
 民事訴訟法第五百七十六條第十項及ヒ第五百八十五條ノ債權者ノ利益ノ爲メ他ノ場所ニ於テ競賣ヲ爲スコト必要トスル場合就中差押ヲ爲シタル場所ニテハ相當ノ價額ヲ得ル能ハサル場合又ハ差押ヘタル物ヲ保管スル爲メ他ノ場所ニ貯藏シタル場合ニ於テハ執達吏ハ債權者ニ其旨ヲ通知シ若シ債權者ト債務者ノ間ニ於テ他ノ場所ニテ競賣ヲ爲スコトノ合意整ハサザルトキハ執行裁判所ニ競賣場所ノ指定ヲ求ムヘシ  
 執達吏職務細則



第七十一條 競賣期日ハ執達吏差押ノ際直チニ之ヲ定ムル  
 ヲ通例トス若シ債權者及ヒ債務者後日ニ期日ヲ定ムルコ  
 トヲ承諾シタル場合又ハ直チニ期日ヲ定ムル能ハサル特  
 別ノ場合若クハ直チニ定ムルノ便益ナラサル場合例ヘハ  
 土地ヨリ離レサル果實又ハ蠶ヲ差押ヘタルモ其果實ノ成  
 熟時期又ハ蠶ノ繭ト爲ル時（民事訴訟法第五百六十八條  
 及第五百八十四條）ヲ確知シ能ハサル場合又ハ執行裁判  
 所ノ意見ヲ以テ他ノ換價方法ヲ命シ若クハ他ノ場所ニ於  
 テ競賣ヲ命セラル可キ場合ニ於テハ一時期日ノ指定ヲ猶  
 豫ス可シ  
 差押ノ際直チニ期日ヲ定メサル場合ニ於テハ之ヲ定メタ  
 ルキ其期日ヲ債權者及ヒ債務者ニ通知ス可シ  
 差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ノ時間ハ民事訴訟法第五百七

十五條ノ規定ニ從ヒ賣却ス可キ差押物ノ性質、價額ニ適  
 當ノ方法ヲ以テ競賣ノ日時及ヒ場所ヲ公告シ得可キ様之  
 ヲ定ム可シ（民事訴訟法第五百七十六條第二項）  
 右時間ハ通例十四日ト定ム差押後一ヶ月以上競賣ヲ延ハ  
 スコトハ顯著ナル特別ノ理由アルニ非サレハ之ヲ許サス  
 競賣ハ前以テ公告セサル可カラヌ公告ハ其地ニ相應ノ方  
 法（掲示板ニ貼付又ハ新聞紙ニテ廣告スルノ類）ヲ以テ爲  
 ス可シ

公告ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ掲クヘシ

第一 競賣ス可キ物ノ略記（例ヘハ家具、寢具、衣類）就

中高價物ハ特別ニ之ヲ掲ク可シ

第二 競賣ノ日時及ヒ場所

公告ヲ爲シタル方法日時ハ執達吏ノ調書ニ附記シ又ハ其

證據トナル可キモノヲ添附シ以テ之ヲ明確ニ示シ其  
既ニ公告シタル日時ヲ改メントスルトキハ更ニ公告ヲ爲  
ス可シ殊ニ貼付シアル公告ハ直チニ之ヲ取除ク可シ

第七十二條

競賣期日前ニ於テ競賣ス可キ物ヲ差押調書ト  
比照シ且賣却ノ準備ヲ爲ス可シ

差押物ニ不足アリタル片又ハ毀損アリタル片ハ其旨ヲ差  
押調書ニ記入シ若シ其物ヲ保存人ニ委託シアリタルトキ

此物ヲ返還ス際作ル可キ調書ニ其旨ヲ記入ス可シ各差  
押物ノ不足又ハ毀損ニ付テハ調書又ハ調書ノ附録ハ其騰

本ヲ以テ債務者ニ通知シ又其保存人ヨリ差押物ヲ正當  
ニ返還シタルヲ證ヲ求ムルトキハ執達吏ハ之ヲ交付ス可

期日ニハ先ツ賣却條件ヲ告知ス可シ民事訴訟法第五百七

十七條ニ規定シタル條件ト異ナル處分ハ執行裁判所ノ命  
シタルトキ又ハ債權者及ヒ債務者ノ合意ニ依ルトキニ非  
サレハ之ヲ許サズ

賣却條件ヲ告知シタル後競賣ヲ催告ス可シ

競賣ニ附シタル物ハ競賣調書ニ記入ス可シ賣却物ハ一々  
之ヲ呼上ケ實物ヲ示ス可シ高價物ハ其評價ヲ告ケ金銀物

ハ其實價ヲ告ケテ競賣價額ハ其評價若クハ實價ヨリ低價  
ノ競賣ヲ許サル旨ヲ諭示ス可シ

競落ノ節ハ直チニ競賣調書ニ每頁其最高競買價格及ヒ競  
落人ノ氏名ヲ綿密ニ附記シ又其代價ヲ支拂ヒタル時ハ直

チニ其旨ヲ附記ス可シ

競賣ニ付スル物ノ不相當ニ過分ナルコトヲ避ケン爲メ執  
達吏ハ時々其賣得金ヲ以テ計算ヲ立テ債權者ニ辨濟ヲ爲

シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルニ至ルトキハ直チニ競賣ヲ止ム可シ(民事訴訟法第五百七十八條)

競賣ニ付シタル金銀物ニシテ其金銀物ノ實價マテニ競賣ヲ爲ス者ナキカ爲メ競落ヲ爲シ得サルトキハ其競買價格中ノ最高價額ヲ競賣調書ニ附記ス可シ

第七十三條 競賣ノ際作ル可キ調書(民事訴訟法第五百四十條及ヒ本則第十三條、第五十二條)ニハ特ニ左ノ諸件ヲ掲クヘシ

第一 競賣ノ賣得金ヲ以テ辨済ス可キ債權及ヒ強制執行ノ費用ノ合計額

第二 若シ賣却條件カ民事訴訟法第五百七十七條ノ規定ニ異ナルル場合ニ於テハ其賣却條件ヲ掲ク可シ(本則第七十二條)

第三 競賣物ヲ列記シ且其各物ニ付キ競落人及ヒ其最高競買價額ヲ記載シ并ニ代金支拂濟ノ旨ヲモ附記ス

調書ニ署名捺印ヲ要スル者(民事訴訟法第五百四十條第三號第四號)ハ競買人中唯タ各最高價申出人ニ限ル若シ此等ノ者期日ノ終結前ニ退散シタルトキハ其署名捺印セシムルコト能ハサル理由ヲ調書ニ附記ス可シ

第七十四條 差押物ヲ競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價スル場合ハ左ノ如シ

第一 執行裁判所ヨリ競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價ヲ爲ス可キコトヲ命シタルトキ(民事訴訟法第五百八十五條)

第二 有價證券ニシテ取引所相場又ハ市相場アルモノ

第三十條 (民事訴訟法第五百八十一條以下)

第三 金銀物ニシテ既ニ競賣ニ付シタルモ其最高競買價額カ其實價ニ至ラサルトキ (民事訴訟法第五百八

十條)

右賣却ハ直接ニ債權者ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得

競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價ヲ爲スコトキハ執達吏ハ成ル可ク高價ニ賣却ス可キコトニ注意ス可シ就中金銀物ヲ其實價ヨリ低價ニ賣却シ又ハ有價証券ヲ其賣却日ノ相場ヨリ低價ニ賣却ス可カラズ又ハ各最高競買申出人ニ別々債權者ト債務者ト之間ニ合意アラサルトキハ必ラシキ代金ヲ支拂ヒタル後ニ非ラサレハ買主ニ賣却物ヲ渡ス可カラズ 高競買申出人ニ別々債權者ト債務者ト之間ニ合意アラサルトキハ必ラシキ代金執行裁判所ヨリ競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價ヲ爲ス可キ

コトヲ命シタルトキハ此命令ヲ遵守ス可シ

此賣却ノ際作ル可キ調書ニハ左ノ諸件ヲ掲タ可シ

第一 競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價シタル理由

第二 賣却物ヲ綿密ニ記載シ且金銀物ノ評價額又ハ有

價証券ノ賣却日ノ相場又ハ執行裁判所ノ定メタル價

額

第三 賣買ノ行爲及ヒ其履行方法

第七十五條 金錢ノ債權ニ付キ強制執行ヲ爲ス場合ニ於テ

ハ有價証券ハ有体動産ト同一ノ方法ヲ以テ執達吏之ヲ差

押ヘ競賣ニ付スルカ又ハ競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價ス

可シ

此場合ニ於テハ無記名及記名ノ有價証券ヲ區別ス可シ

無記名証券ニ付テハ各所有者ハ第三者ニ對シ此証券并ニ

執達吏職務細則

之ニ基ク權利ヲ自由ニ處分スルコトヲ得ルモノトス  
記名證券ニ付テハ唯タ其記名者又ハ讓渡ノ後ニ在テハ讓  
渡證書ニ記名アル者ニ限り此證券ヲ處分スルコトヲ得ル  
モノトス  
有價證券賣却ノ際執達吏ハ最注意シテ執務ス可シ殊ニ其  
賣却方法ニ付キ特ニ執行裁判所ノ命ナキトキハ之ヲ競賣  
ニ付スルヤ又ハ競賣ノ方法ニ依ラスシテ換價スルヤハ其  
有價證券カ取引所相場又ハ市相場アルモノナルト否トニ  
關係スルモノトス此場合ニ於テ執達吏ハ先ツ其日ノ相場  
ヲ確實ニ探知シ就中新聞紙ノ相場表ニ依リ又ハ此等ノ證  
券ヲ取扱フ官廳若クハ其營業人ニ付キ探知ス可シ  
有價證券ニシテ取引所相場又ハ市相場ナキモノハ一般ノ  
規定ニ從ヒ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ賣却ス可シ

取引所相場又ハ市相場アルモノハ前條ノ規定ニ從ヒ競賣  
ノ方法ニ依ラスシテ換價ス可シ此場合ニ於テハ其營業人  
ノ媒介ヲ求ムルヤ又自ラ其周旋ヲ爲スヤハ執達吏ノ見込  
ニ任ス其營業人ノ媒介ヲ求ムル場合ニ於テハ賣却ニ關ス  
ル調書ニ換ヘ其計算書ヲ執行記録ニ添付ス可シ  
何レノ場合ニ於テモ證券ハ代金支拂濟ニ非サレハ之ヲ引  
渡ス可カラス  
賣却ヲ十分ニ施行完結スル爲メ執達吏ハ記名ノ有價證券  
ヲ買主ノ氏名ニ書換ヘ又無記名ノ證券ニシテ其流通ヲ止  
メタルトキハ直チニ其流通回復ヲ爲ス職務アルモノトス  
(民事訴訟法第五百八十二條、第五百八十三條、執達吏手  
敷料規則第十二條)又執達吏ハ賣却前ニ氏名ノ書換又ハ  
流通ノ回復ニ付キ必要ノ陳述ヲ爲ス權利ヲ得ル爲メ債務

名義ノ證及ヒ差押調書ヲ添ヘ執行裁判所ニ届出ツ可シ  
 無記名證券ノ流通回復ニ付テモ亦賣却前ニ管轄官廳ニ届  
 置キ又記名證券ノ買主ノ氏名ニ書換ヲ爲スコトハ賣却後  
 其證券ヲ出シタル會社等ニ至リ之ヲ施行ス可シ  
 第七十六條 手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券  
 ヲ以テ生スル第三債務者ニ對スル債務者ノ債權ヲ以テ債權  
 者ニ辨濟ヲ爲シ得ル場合ニ於テハ執達吏ハ本則第八十三  
 條、第八十四條ノ規定ニ於ケル職務ヨリモ一層深ク注意  
 ヲ加ヘ執務ス可キモノトス  
 債務者カ此債權ヲ以テ自己ノ義務ヲ履行セントスルハ  
 其裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ヲ執達吏ニ示ス可シ  
 此債權ノ差押ヲ爲サントスルハ普通債權ノ如ク執行裁  
 判所ノ決定ヲ要セス有體動産ニ於ケルカ如ク執達吏其證

券ヲ占有シテ差押ヲ爲ス可キ者トス（民事訴訟法第六百  
 三條）  
 此債權ノ額及ヒ其時期ノ不明瞭ナルトキハ執達吏ハ其債  
 權ノ差押ヲ爲スニ當リ債務者ヨリ之ヲ明示シタルトキニ  
 非サレハ差押ヲ施行セサルヲ通例トス若シ此明示ナキモ  
 他ニ差押ヲ可キ物ナキ場合若クハ其差押ヲ可キ物不十分  
 ナル場合ニ限リ此債權ヲ差押ヲ可シ  
 此債權ヲ差押ヘタルトキハ他ノ差押ト同一ニ債權者及ヒ  
 債務者ニ之ヲ通知ス可シ但債權者ニハ差押調書ノ謄本ニ  
 認証ヲ附シテ之ヲ通知ス可キモノトス  
 占有シタル證券ハ本則第六十四條ニ規定シタル方法ニ依  
 リ之ヲ保存ス可シ  
 右ノ場合ニ於ケル差押調書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ  
 執達吏職務細則

第一 差押ヘタル債權ノ明示即チ其品名、金額、期限及  
 此證券ニ關係アル債權者、債務者ノ氏名  
 第二 證券ヲ正當ニ占有シタルコト  
 右ノ外尙ホ執行上ノ處分ハ普通ノ債權ニ係ルモノ（本則  
 第八十三條）ト同一ニ債權者ノ申立ニ依リ執行裁判所之  
 ヲ施行ス  
 差押ヘタル債權ヲ債權者ニ移付シ又ハ債權者ノ委任スル  
 執達吏ニ引渡スコトヲ命スル旨ノ執行裁判所ノ決定ト正  
 本ヲ債權者ヨリ提出シタルトキハ執達吏ハ差押ヘタル債  
 權ニ關係ノ證書類ヲ債權者ニ引渡スコシ  
 債權者ニ證書類ヲ引渡シタルトキハ執達吏ハ其受取證ヲ  
 取り執行記録ニ添附スコシ  
 債權ノ差押ヲ解キタルトキハ此債權ニ關係ノ證書類ヲ本

則第八十二條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ返付スコシ

第七十七條 土地ヨリ離レサル果實及ヒ蠶ノ差押賣却ハ  
 有體動産ニ關スル本則ノ規定及ヒ民事訴訟法第五百六十  
 八條及ヒ第五百八十四條ノ規定ヲ對照シテ其處分ヲ爲ス  
 可シ  
 執達吏ハ果實及ヒ蠶ヲ差押ヘタルコト且之ヲ古有シタル  
 コトヲ適宜ノ方法ヲ以テ差押標示ヲ爲シテ之ニ明記シ且  
 之ニ記名シテ差押ノ告示ヲ爲シ又ハ此他適宜ノ方法ニ依  
 リ各人ニ差押ノ旨ヲ知ラシム可シ又己ムヲ得サル場合ニ  
 於テ管理人ヲ要スルトキハ執達吏之ヲ任命スコシ又  
 執達吏ハ收穫時期ノ到來スルコトニ注意スコシ又管理人  
 ヲ任命シタルトキハ競賣期日ヲ定メテ之ヲ公告シ且果實  
 ノ成熟ニ過キ又ハ蠶繭ノ收穫時期ヲ過キ損害ヲ生セザル

爲メ管理人ヲシテ適當ノ時期ニ於テ報告ヲ爲ス可キ義務  
ヲ負ハシム可シ  
此場合ニ於ケル差押調書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ  
第一 果實ニ付テハ地所ノ位置、面積ノ概畧、果實ノ種  
別、種類ニ差押ノ旨ヲ明シ、又ハ其ノ組合ニ  
於テ(春蒔、夏蒔ノ類)以テ差押調書ニ明記シ、且  
第二 差押ヘタル果實又ハ蠶繭ニ付キ賣得金ノ見積リ  
額  
第四 差押ヲ爲シタルコトヲ告知スル爲メ該々々ノ方  
法若シ管理人又任命タルトキハ其理由  
第五 收穫ノ時期、蠶繭ノ果實又ハ蠶繭ノ差押賣得金  
競賣ハ收穫ノ時期ニ至リタルトキニ限り之ヲ許ス

競賣ヲ收穫前ニ施行ス可キヤ又ハ之ヲ收穫後ニ施行ス  
可キヤ全部一時ニ之ヲ競賣ニ付ス可キヤ又ハ一分ツ、競  
賣ニ付ス可キヤハ執達吏時宜ニ依リ之ヲ定ム可キモ以テ  
執達吏收穫後ニ競賣ヲ爲ストキハ收穫ノ爲メ信用  
人ヲ雇ヒ收穫物ヲ安全ニ運搬セシメ且競賣期日  
保存スルノ處分ヲ爲ス可シ又執達吏必要ト認ムルトキハ  
收穫物ノ數量ヲ保全スル爲メ收穫ノ際監督ヲ爲ス可シ  
收穫ノ爲メ要スル費用ハ成ル可ク前以テ之ヲ定ム可シ  
收穫前ニ競賣ヲ爲ストキハ其地所又ハ其場所ニ於テ之ヲ  
施行スルヲ通例トス  
第七十八條 第一債權者ノ爲メ既ニ差押ヘタル物ニ付キ第  
二債權者ヨリ委任ヲ受ケタル執達吏ハ更ニ之ヲ差押フル



コトヲ得ス但假差押ニ係ル物ニ付テハ此限ニ在ラズ  
 第二債權者ヨリ委任ヲ受ケタル執達吏ハ既ニ差押ヲ爲シ  
 タル執達吏(第一債權者ノ委任ヲ受ケタル執達吏)ニ差押  
 調書ノ閱覽ヲ求メ其債務者ノ有體動産中ニ未タ差押ヘサ  
 ル物アルヤ否キヲ照査シ未タ差押ニ係ラサル物アルトキ  
 ハ之ヲ差押ヘテ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ其差押調書  
 ヲ交付シ且總テノ差押物ヲ併セテ競買ニ付テ可キコトヲ  
 求ム可シ若シ差押ヲ可キ物アラサルトキハ照査調書ヲ作  
 シ右執達吏ニ之ヲ交付シ且ツ第二債權者ノ爲メ配當要求  
 ヲ爲ス可シ但照査調書ニハ差押調書ト債務者ノ有體動産  
 ト相對照シテ差押ヲ可キ物アラサル旨ヲ記載スルヲ以テ  
 足ルテ全陪一却ニシテ競買ニ付テ可キコト又ハ一併ノ競  
 前項ノ求アリタル片ハ第一債權者ノ委任ヲ受ケタル執達吏

ハ別ニ委任ヲ要セスシテ第二債權者ノ委任ヲ受ケタルモ  
 ノト看做シテ處分ス可シ(民事訴訟法第五百八十六條)又  
 右ノ場合ニ於テ若シ第一債權者ノ爲メニ爲シタル差押力  
 取消ト爲リタルトキハ執達吏ハ第二債權者ヲ以テ差押債  
 權者ト看做シ爾後ノ手續ヲ續行ス可シ(民事訴訟法第五  
 百八十七條)又  
 第七十九條前條第三項ノ場合(民事訴訟法第五百八十  
 六條第二項)即チ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル場  
 合ニ及ヒ民法ニ從ヒ執行力アル正本ニ因ラスル配當ヲ  
 要求スル場合(民事訴訟法第五百八十九條及ヒ第五百九  
 十條)ニ於テハ執達吏ハ配當要求ノアリタルコトヲ配當  
 ニ與カル各債權者及ヒ債務者ニ通知ス可シ(民事訴訟法  
 右ノ場合ニ於テ債務者三日ノ期間内ニ執行力アル正本ニ

因ラザル配當要求ヲ認諾セサル旨ヲ申立ツルトキハ執達吏ハ直チニ其配當ヲ要求スル債權者ニ之ヲ通知ス可シ（民事訴訟法第五百九十一條）

第八十條 執達吏ハ豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人ハ軍屬ニ對シ兵營及ヒ軍事用廳舎又ハ軍艦ニ於テ差押ヲ施行ス可キ權ヲ有セス此場合ニ於テハ軍事裁判所又ハ所屬ハ長官又ハ隊長ハ執行裁判所ノ囑託ニ因リ差押ヲ爲ス然レトモ其後ノ手續ハ執達吏ニ屬スルモノトス（民事訴訟法第五百五十六條）  
執達吏ハ右手續施行ノ爲メ債務名義ノ證ヲ提出セシメ且執行裁判所ノ命ニ依リ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官若クハ隊長ノ屬スル官廳ヨリ差押物引渡ノ通知アルヲ待ツカ又ハ該廳ニ債權者ノ委任ヲ示シテ其引渡ヲ求ム可シ

執達吏ハ差押物ヲ引渡ヲ受クル際其差押物ト其差押ノ調書ト比較シ不足或ハ毀損シタル物アレハ之ヲ記載シ直チニ競賣期日ヲ定ム可シ  
第八十一條 執達吏ハ強制執行ニ依リテ得タル金銭ニ關シ計算ヲ立テ各債權者ニ屬ス可キ金額及ヒ強制執行ノ費用ヲ記録ニ明記シ其剩餘額アレハ之ヲ記載スルコトヲ要ス  
執達吏ハ強制執行ニ依リテ得タル金額中ヨリ強制執行ノ費用（執達吏手数料規則及ヒ民事訴訟費用法第十六條）ヲ扣除シ其餘金ヲ以テ各債權者ニ屬ス可キ金額ヲ即時ニ支拂ヒ尙ホ剩餘アレハ之ヲ債務者ニ還付ス可シ（本則第四十三條）郵便爲替ヲ以テ右金銭ヲ送付シタルハ郵便局ノ受取証其他ノ方法ヲ以テ送付シタルトキハ受取人ノ受

取證記録添附シテ保存ス可シハハイキハ受取人ハ受  
 強制執行ハ費用申證人、鑑定人、管理人及ヒ保存人其受拂  
 出可成費用等ニ付テモ亦同シハハイキハ受取人ハ受  
 執達吏ハ右ノ手續ヲ終了シタル後ハ民事訴訟法第五百五  
 十五條第一項ノ規定ニ從ヒ債務者義務ヲ完全ニ盡シタル  
 場合ニ於テハ執行力アル正本及ヒ受取人証ヲ債務者ニ交  
 付シ又其義務ノ一分ヲ盡シタルトキハ執行力アル正本ニ  
 其旨ヲ記載シテ之ヲ債權者ニ還付シ且受取人証ヲ債務者  
 ニ交付スヘシ何レハ場合ニ於テモ計算書ヲ債務者ニ交付  
 スルセサルカラス也ハハイキハ受取人ハ受  
 強制執行ニ依リ得タル金額（賣得金及ヒ差押金錢ヲ總括  
 ス）ヲ以テ其配當ニ與カル各債權者ヲ満足セシムルニ足  
 ラサル場合ニ於テハ先ツ其各債權者ヲシテ配當ノ協議ヲ

爲サシムヘシ協議調ヒタルトキハ其協議ニ任セ且前數項  
 ノ規定ヲ準用シテ手續ヲ完結シ若シ協議調ヒサルトキハ  
 供託規則ニ從ヒ其金額ヲ供託スヘシ此場合ニ於テ執達吏  
 ハ其事情ノ届書（各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサルコ  
 ト及ヒ協議調ヒサルコトヲ包含ス）ヲ作リ執行手續ニ關  
 スル一切ノ書類ヲ添附シテ執行裁判所ニ届出シヘシ且民  
 事訴訟法第五百九十三條ノ規定ニ從ヒ  
 第八十二條ノ執達吏ハ強制執行完結後ニ至リ賣却セサリシ  
 差押物又ハ強制執行中裁判所ノ裁判若クハ債權者ノ免除  
 ニ依リ差押ヲ解除シタル物ヲ即時ニ債務者又ハ領收權利  
 者ニ交付スヘシ  
 右交付シタル物ニ付テハ執達吏ハ債務者又ハ領收權利者  
 ヲシテ受取証ヲ出サシメ之ヲ記録ニ添附シテ保存スヘシ

第三款 債權ニ對スル強制執行ニモ對シスヘシ  
 第八十三條 第三債務者ニ對スル債權者ノ債權ニシテ金錢  
 支拂又ハ他ノ有休物若クハ有價証券ノ引渡若ハ給付ヲ  
 目的トスルモノハ強制執行ハ執達吏ノ專行ニ任セテ執行  
 裁判所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ爲スモノトス（民事訴訟法  
 第五百九十四條）  
 金錢ノ債權ヲ差押ヲ可キトキハ第三債務者ニ對シ債務者  
 ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁シ又債務者ニ對シ債權ノ處分殊ニ  
 其取立ヲ爲スコカラサルコトヲ命令スルモ以テ之ヲ民事  
 訴訟法第五百九十八條  
 又差押ヘタル債權ニ付キ債權者カ代位ノ手續ヲ要セス  
 テ直チニ之ヲ取立ツルキ又其支拂ニ換ヘ券面額ニテ之ヲ  
 轉付スルヤハ債權者ノ選擇ニ任セ其申請ニ因リテ執行裁

判所ノ命令ヲ付與ス（民事訴訟法第六百條）  
 右命令ノ送達ハ總テ執達吏ノ職務ニ屬シ且普通ノ規定ニ  
 從フト雖モ特ニ次條ノ規定ニ注意ス可シ  
 第八十四條 債權者第三債務者ヲシテ民事訴訟法第六百九  
 條ニ掲ケタル陳述ヲ爲サシメシコトヲ申立テタルトキ裁  
 判所カ差押命令ヲ第三債務者ニ送達セザル場合ニ於テ  
 ハ郵便ニ依ル送達方法ヲ用キ普通ノ送達即チ執達吏  
 爲ス送達方法ニ依ルモノトス  
 執達吏ハ右命令ヲ速ニ第三債務者ニ送達シ且其送達証書  
 ニ送達時刻ヲ記入ス可シ又執達吏ハ右送達ニ際シ第三債  
 務者ヲシテ民事訴訟法第六百九條ニ掲ケタル陳述ヲ送達  
 証書ニ記入セシム可ク又ハ七日ノ期限内ニ通知セシムル  
 コトヲ催告ヲ爲スヘシ第三債務者直チニ右陳述ヲ爲サズ

シテ送達後ニ之ヲ爲ストキハ執達吏ハ速カニ之ヲ裁判所ニ差出スヘシ

第八十五條 債務者ハ其轉付シタル債權ニ關スル所持シ証書ヲ債權者ニ引渡ス義務アリトス（民事訴訟法第六百六條）

執達吏ハ債權者ノ求ニ因リ執行力アル債務名義ノ証及轉付ノ命令ニ基ツキ強制執行ノ方法ヲ以テ前項ノ證書及債務者ヨリ引渡サシムヘシ但シ轉付ノ命令ハ遲クトモ此強制執行ノ開始前ニ債務者ニ送達スルコトヲ要スハハテ若シ其引渡サシムヘキ證書ヲ轉付ノ命令中ニ十分明記セアラスシテ債務者ニ就キ之ヲ穿鑿シ得サルトキハ執達吏ハ其旨ヲ債權者ニ通知スヘシ此場合ニ於テハ債權者ハ命令ヲ補充ヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得

執達吏右強制執行ヲ實施スルニ付テハ有體動産引渡ニ關スル手續ニ付テノ規定ニ從フヘシ

第四款 不動産及船舶ニ對スル強制執行

第八十六條 不動産ノ競賣ハ執行裁判所ノ命令ニ依リ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏之ヲ爲スモ又トス且民事訴訟法第六百五十九條

右ノ場合ニ於テハ執達吏ハ民事訴訟法第六百六十二條乃至第六百六十九條ノ規定ニ從ヒ競賣ヲ取扱フヘシ就中競賣ニ際シ利害關係人（民事訴訟法第六百四十八條）カ或ハ競買人ニ保證ヲ立テシメシコトヲ申立ツルト其競賣人ノ申出テタル價額十分ノニ當ル金額ヲ競買人ヨリ現金又ハ有價証券ヲ以テ執達吏ニ預ケタル後ニ非サレハ其競賣ヲ許スヘカラス（民事訴訟法第六百六十四條）

此他性質ニ於テ許ス限リハ動産競賣ノ手續ヲモ準用スヘシ又ハ債權者ノ爲メ時差ニ遊マシムル時ニ非セハ其執達吏同ニ債權者ノ爲メ動産競賣ト不動産競賣ト同時ニ爲スヘキ場合ニ於テ動産ノ競賣シテ債權者ノ請求ヲ満足セシメ且強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルヘキ見込ナルトキハ先ツ動産ノ競賣ヲ爲スヘキコトヲ裁判所ニ申立テ其指揮ヲ受クヘシ

第八十七條 競賣期日ニ於テ許スヘキ競賣價格ノ申出ナキトキ（民事訴訟法第六百五十五條ノ規定ニ於ケル最低競賣價額ヲテ競買人トキハ）其旨ヲ裁判所ニ届出シ（民事訴訟法第六百七十條）

競落ヲ許ス決定アリタル後債務者カ不動産ノ引渡ヲ拒ム場合ニ於テ裁判所ノ命アルトキハ執達吏ハ債務者ノ占有

ヲ解キ（已ムヲ得サル場合ニ於テハ威力ヲ用フ）其不動産ヲ管理人ニ引渡スヘキモノトス（民事訴訟法第六百八十七條）

再競賣ニ付テハ民事訴訟法第六百八十八條ノ規定ニ從フヘシ

執達吏競賣ヲ終リタルトキハ其調書及競買保証書爲シテ預リタル金錢又ハ有價証券ニシテ返還セサルモノ其他關係書類等ヲ悉皆取纏メ三日内ニ裁判所書記ニ渡ス

第八十八條 民事訴訟法第七百二條ノ規定ニ從ヒ裁判所ヨリ不動産ノ入札拂ヲ命セラレタルトキハ執達吏ハ同法第七百三條乃至第七百五條ノ規定ニ從ヒ入札拂ヲ取扱フヘシ此場合ニ於テモ亦前二條ノ規定ヲ準用ス

第八十九條 民事訴訟法第七百十七條以下ノ規定ニ從ヒ裁

裁判所ヨリ船舶ノ競賣若ハ入札拂ヲ命セラレタルトモ執達吏ハ不動産ノ競賣若ハ入札拂ニ關スル前三條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ取扱フヘキモノトス

第五款 附金銀ノ支拂ヲ目的トセザル債權ニ付テハ第九十條ニ特定動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡サシムヘキ強制執行ハ執達吏其執行力アル債務名義中共包合タル物ヲ債務者ニ就キ索出シテ之ヲ取置ク債權者ニ引渡スヲ以テ之ヲ爲スモノトス(民事訴訟法第七百二十條)

右動産ノ引渡ハ之ヲ取上ケタル後速カニ行フ要ス若シ直チニ之ヲ引渡スコト能ハサルトキハ債權者ヨリ差圖アルマテ之ヲ保存スヘシ其保存ノ手續ハ本則第六十三條乃至第六十四條ニ於ケル差押物ニ關スル規定ニ從フ

右執行ニ付キ作ルヘキ調書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ掲クヘキ

第七 債務者ヨリ取置タル特定動産又ハ代替物ノ箇數、度量又有價證券ニ係ルトキハ其券面額、番號、日

第九十一條 不動産又ハ入札ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡シシテヘキ強制執行ハ執達吏債務者ノ占有ヲ解キ債權者ニ其占有ヲ得セシメテ之ヲ爲スモノトス(民事訴訟法

第七百三十一條

此執行行為ニ付テハ債權者又ハ其代理人ノ立會ヲ必要ト爲スニ依リ執達吏ハ執行ノ際之ヲ出頭セシメ且必要ナル事項ニ付キ豫メ債權者ト協議シ其意ヲ承ケテ之ヲ處分シ無益ノ日時ヲ費サズルコトニ注意スヘシハ特ダ執達吏ハ其受判決中ニ附屬物及ヒ器具等ヲモ包含シアルトキハ執達吏ハ之ヲ併セテ債權者ニ引渡スヘシキハ其理由又ハ其附屬物執達吏ハ住家明渡ノ際債務者ノ動産類印チ強制執行ノ目的物ニ非サル物ハ之ヲ取除キ民事訴訟法第七百三十一條ノ規定ニ從ヒ之ヲ取扱フヘシ

執達吏ハ其保存スヘキ動産ニ付テハ差押物ニ於ケルト同一ニ本則第六十二條乃至第六十四條ノ手續ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ

保存シタル物ヲ債務者ニ返還シタルトキハ執達吏ハ其受取証ヲ取り置クヘシ

債務者右ノ受取ヲ怠ルトキハ執達吏ハ其事情ヲ具シテ執行裁判所ノ許可ヲ得差押物ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ扣除シタル上其代金ヲ供託スルシテ右執行ニ付キ作ルヘキ調書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ掲クヘシ

(民事訴訟法第五百四十條)

- 立第一、債權者又ハ其代理人ノ出頭シタル旨
- 第二、引渡又ハ明渡シタル物及ヒ其場所ニ現在スル附屬物、器具ノ明細
- 第三、債務者ハ其物ノ占有ヲ解キ債權者又ハ其代理人之ヲ取得シタル旨
- 第四、債務者ノ動産ヲ保存シタルトキハ其理由、種類



第六款 債務者ノ抵抗除去ニ關スル強制執行  
 第九十二條 債務者ノ執行ニ當リ其行為ヲ耐忍スル義務アリ之ヲ抵抗スルトキハ債權者ハ之ヲ除去スル爲メ執達吏又立會ハシムル得ルニ依リ得ル立會セタル執達吏ハ債權者人提出スル債務名義ノ証ニ依リ債權者又ハ其代理人カ如何ナル行為ヲ爲スノ權利アリ及ヒ債務者カ如何ナル程度ヲ耐忍スルハキ義務アルヤヲ明細ニ調査スル債權者ノ申立正當ナル限ハ執達吏ハ債務者ヲテ其義務ヲ盡サシメテ又務必要ナル場合ニ於テハ民事訴訟法第五百三十六條、第五百三十七條ノ規定ニ從ヒ威力ヲ用ユルコトヲ得ヘシ然レトモ成ルベク此強制手段ヲ用ユルコトヲ慎ミ偏ニ抵抗除去ニ必要

ナル程度ヲ越ヘサルコトニ注意スヘシ  
 右執行ニ關シ作ルヘキ調書ニハ特ニ左ノ諸件ヲ掲クベシ  
 第一 債務者ノ耐忍シタル行為  
 第二 用弁タル強制手段  
 第七款 證人勾引ニ關スル執行  
 第九十三條 證人ヲシテ強テ証言ヲ爲サシムル爲メ勾引スルトキ(民事訴訟法第二百九十四條)ハ執達吏ハ其勾引狀ヲ証人ニ示シタル後之ヲ引致スヘシ  
 証人疾病ニ罹リ之ヲ勾引スルハ其生命ヲ危險ナラシムルコトヲ醫師ノ診斷書又ハ實驗ニ依リ認知スルトキハ執達吏ハ其勾引ヲ停止スヘシ此場合ニ於テハ其停止ノ理由ヲ執行調書ニ記載シ其旨ヲ受訴裁判所ニ届出ツベシ  
 第八款 假差押命令ノ執行

第九十四條 假差押ノ命令ノ執行（民事訴訟法第七百二十七條以下）ヲ爲スニ當リ執達吏ノ施行スヘキ手續ハ（民事訴訟法第七百四十九條、第七百五十條ノ規定ハ例外トス）通常ノ強制執行手續ノ規定ニ從フ（民事訴訟法第七百四十九條、第七百五十條ノ規定ニ從シタルモノナルヤ否ヤヲ自ラ行ノ期間十四日ヲ既ニ經過シタルモノナルヤ否ヤヲ自ラ調査スヘシ）（民事訴訟法第六十五條乃至第六十七條）  
 假差押ノ命令ニ差押フヘキ物ヲ明記セサルトキ（例ヘハ命令ニ汎然債務者ノ財産假差押ヲ命スルトノミ記載シタルトキ）ハ債權者ノ請求并ニ其利息及ヒ費用ヲ満足セシムルニ足ルヘキ丈ケノ物ヲ差押フヘキモノトス執達吏ハ假差押ノ命令ニ基キ差押物ヲ領收シ之ヲ競賣ニ付スルコトナク事件ノ完結ニ至ルマテ貯藏保存スルノ義務アリ然

レトモ差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スル恐アルトキ又ハ其貯藏ニ付キ不相應ナル費用ヲ要スヘキコトノ明了ナルトキハ之ヲ競賣ニ付セラレシモノトシテ執行裁判所ニ申出テ且債權者ニ之ヲ告知シテ便宜ノ處分ヲ爲スヘシ（民事訴訟法第七百五十條末項）

第九款 假處分命令ノ執行

第九十五條 假處分ノ命令ノ執行ハ金額ヲ領收スル目的ニ非スシテ物ノ引渡シ行爲ノ作爲若クハ不行爲ニ關スル處分ヲ爲シ將來ノ強制執行ヲ保全セシムルニ在リ（民事訴訟法第七百五十五條以下）

此場合ニ於テモ亦執達吏ハ前條ノ規定ヲ準用シテ右處分ノ執行手續ヲ爲スヘキモノトス

第十款 裁判上ノ供託

第九十六條 執達吏法律ノ規定ニ依リ供託ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ差押物又ハ賣得金ヲ債權者ニ渡サ、ルモノトス供託ヲ爲スヘキ場合ハ左ノ如シ、

第五百二十二條、第五百四十七條、第五百七十四條、第五百七十七條、第五百九十三條、第六百二十一條、第六百二十六條及ヒ本則第八十一條、

第三ノ裁判所ヨリ供託ヲ命シタルトキ、

供託ヲ必要ナリト認ムルトキハ執達吏ハ供託規則ニ從ヒ直チニ所屬ノ供託所ニ就テ之ヲ行スヘシ、

第二號ノ場合ニ於テハ賣得金配當ノ爲メ事情ヲ管轄執行裁判所ニ届出ツヘシ（民事訴訟法第五百九十三條、第六百二十一條）此事情届書ニハ執行ニ關スル債務各義ノ證書押調書、供託ニ關スル證書並ニ其他執行手續ニ關スル書類就中差押及ヒ轉付ノ命令ヲ添付スヘシ、

第三節 刑事事件ノ執行其他ノ事務ニ關スル執行

第一款 罰金、科料及ヒ過料ノ執行

第九十七條 判決、決定及ヒ命令ヲ以テ科シタル罰金、科料及ヒ過料ノ徵收ハ民事訴訟法中金錢ノ債權ニ關スル強制執行ノ規定ニ從ヒ之ヲ執行スヘシ、

右ノ執行ハ裁判所又ハ檢事ノ命令ニ依リ執達吏之ヲ爲スルモノニシテ、民事訴訟法第三百二十條及ヒ執達吏規則第三條）此命令ハ執行力アル債務名義ニ代用スルモノ

此執行ニ關シテ執達吏ノ爲スヘキ手續ハ民事訴訟法ノ強制執行ニ於タル規定ニ同シ但執行ヲ始ムル前ニ執行文ヲ送達スルコトヲ要セス(本則、四十九條第四號)

執達吏金額ヲ徵收シタルトキハ其受取証ヲ納人ニ交付スヘシ其金額ヲ國庫ニ納入スル手續ハ別ニ定ムル所ニ依ル

執達吏ハ右金額ヲ完納シタルトキ又ハ無資力者ニシテ之ヲ完納スルコト能ハサルトキ又ハ犯人死亡シタルトキ(刑法附則第二十條)ハ何レノ場合ニ於テモ其旨ヲ裁判所又ハ検事局ニ報告シ且其犯人管轄ノ區裁判所ニモ之ヲ届出ツヘシ(出テヘシ) (民事訴訟法第五百三十三條、第六百一十二條) 第二款ニ於テ賠償ノ執行

第九十八條 刑事訴訟ノ裁判ニ於テ犯人ニ負擔セシメタル損害賠償ハ民事訴訟法中金錢ノ債權ニ付テソ強制執行ノ規定ニ從ヒ之ヲ執行スヘシ

右執行ハ裁判所書記ノ付與スル執行力アル判決及正本ニ依リテ之ヲ爲スモノトス(民事訴訟法第五百三十三條) 賠償ヲ求ムル者ハ其執行ヲ直接ニ執達吏ニ委任シ又ハ裁判所書記ヲ經テ之ヲ執達吏ニ委任スルコトヲ得

第三款 沒收物、沒收金及ヒ追徵金等徵收 第九十九條 刑事訴訟ニ於テ物品、金錢ヲ沒收シ又ハ金錢ヲ追徵スヘキコトヲ命シタルトキ其執行ハ民事訴訟法中特定動産ニ付テソ強制執行及ヒ金錢ノ債權ニ付テソ強制執行ノ規定ニ從ヒ之ヲ施行スヘシ(刑事訴訟法第三百二十條及ヒ執達吏規則第三條)

右執行ノ手續ハ本則第九十七條ノ規定ヲ準用スヘシ

第四款 裁判費用ノ徴收

第四百條 刑事ニ關スル費用(刑事訴訟法第二百二十四條、第百

四十一條、第三百二十條及七刑法附則第四十八條乃至第

五十三條)及ヒ民事ニ關スル費用(民事訴訟法第九十九

條)ハ民事訴訟法中金錢ノ債權ニ對テハ強制執行ノ規定

ニ從ヒ之ヲ負擔スヘキ義務ヲルモノヨリ徴收スヘシ(刑

事訴訟法第三百三十四條、第四百三十一條、第三百三十三條及七

刑法附則第四十八條乃至第五十三條)但私訴ニ關スル訴

訟費用ハ民事訴訟法ニ於ケル訴訟費用ノ規定ヲ從テ本刑

事訴訟法第三百二十三條)

右執行手續ハ本則第九十七條ノ規定ヲ準用ス

第四節 行政裁判所其他特別裁判所ヨリノ囑託ニ依

ル強制執行

第一百一條 行政裁判所ヨリ強制執行ノ囑託アル場合ニ於テ

(行政裁判法第二十一條)執達吏ノ職務ニ屬スルモノニシ

テ且囑託ヲ受ケタル裁判所ヨリノ命アルトキハ執達吏ハ

本則第二節ノ規定ヲ準用シテ之ヲ執行スヘシ

執達吏ハ強制執行ヲ完結シタルトキハ執行ノ成績ヲ其裁

判所ニ届出ツヘキモノトス此場合ニ於テハ執達吏ハ執達

吏手数料規則ニ依リ手数料及ヒ立替金ヲ受ク

第一百二條 陸海軍軍法會議ヨリ私訴裁判ノ強制執行ノ囑託

アル場合ニ於テ執達吏ノ職務ニ屬スヘキモノニシテ且其

囑託ヲ受ケタル裁判所ヨリノ命アルトキハ執達吏ハ陸海

軍軍法會議私訴裁判強制執行法及ヒ前條ノ規定ニ從ヒ之

ヲ施行スヘシ

右ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規程ヲ適用スヘシ

第三百三條 (三十二年法律第十五號競賣法施行ニ付本條記載ヲナサス)

第三百四條 全上

第三百五條 全上

第三百六條 全上

第六節 辨濟提供

第三百七條 (明治三十一年六月法律第十一號民法施行法第九條ニ依リ辨濟提供規則廢止ニ付記載セズ)

第七節 破産財團ニ關スル競賣

第三百八條 執達吏破産財團ノ動産、不動産ノ競賣ノ委任ヲ受ケタルトキハ動産、不動産ノ競賣ニ關スル民事訴訟法

ノ規定ヲ準用シ且破産裁判所ノ指揮ヲ受ケ之ヲ競賣スヘシ(商法第千十八條)

右賣得金ノ取立及ビ其供託ニ付テモ亦同シ

第八節 拒證書ノ作成

第三百九條 執達吏ハ手形ニ關シ破拒者ヨリ拒證書作成ノ委任ヲ受ケタルトキハ商法第七百九十條乃至第七百九十八條ノ規定ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ(執達吏規則第二條)

右手數料ハ執達吏手數料規則第十六條ノ規定ニ從ヒ被拒者ヨリ之ヲ取立ツルコトヲ得

「參照」(舊商法第七百九十條乃至第七百九十八條廢止)

(新商法第四百四十二條、第四百八十七條、第四百九十條、第四百九十一條、第五百十四條乃至第五百十七條)

第九節 供託ニ付テノ認證

第一百十條 金錢又は有價證券ヲ供託ノ爲メ供託所ヘ送付スル者ハ之ヲ送付シタルコトニ付キ認證ヲ執達吏ニ求ムルコトヲ得認證ノ求ヲ受ケタル執達吏ハ唯々其金錢若クハ有價證券カ其書狀中又ハ封皮中ニアリトノ供託者ノ確言ノミヲ以テ足レリト爲ヌ可カラス必ス送付ノ實否及ビ其數量ノ如何ヲ確知スルコトヲ要ス若シ此目的ノ爲メ必要ナル場合ニ於テハ其金額、有價證券ノ種類ヲ總テ取調ヘ之ヲ計算シ且供託者ノ面前ニ於テ送狀ト比較シタル後之ヲ包裝シテ送付セシメ又ハ拂込マシム可シ

送付ニ關スル必要ナル手續ハ供託規則ニ從フ可シ  
 認證書ハ原本ニテ委託者ニ交付ス可キモメトス  
 「參照」(明治卅二年二月法律第十五號供託法明治卅二年三月大藏省令第六號供託物取扱規則第五條)

第一百十節 手數料

第一百十條 執達吏ハ其職務執行ニ付キ作リタル證書ノ原本ニ手數料及ヒ立替金(執達吏手數料規則第二條)至第十八條)ヲ計算シテ其額ヲ附記シ置キ後ニ作ル可キ書類ノ正本ニ記入スルノ用ニ供ス可シ又職務時間ニ應シ其辨濟ヲ受ク可キ場合ニ於テ最短ノ時間ニ付キ定メタル手數料ヲ超過スルトキハ其職務時間ヲ附記ス可シ(執達吏手數料規則第二十三條)

右手數料及ヒ立替金ハ其各種類(例へハ書類送達ノ手數料、動産差押ノ手數料、動産若クハ不動産競賣、手數料又ハ書記料、郵便料、電信料、公告料ノ立替金、又ハ證人、鑑定人、管理人、保存人等ノ手當若クハ物ノ送致費用、物ノ保存費用、旅費ノ立替金ノ類)ヲ區別シテ之ヲ表示ス可シ且

旅費ニ付テハ往復旅程ヲ總計シテ之ヲ掲ク可シハ其  
 計算書ニハ通常職務簿(執達吏ノ常ニ備置ク簿冊)ニ記シ  
 タル事件ノ番號ヲ附記ス可シ又證書謄本ニハ手数料計算  
 ノ謄本ヲ添附シ置ク可シ  
 手数料ヲ支拂フ可キ者其證書ノ原本謄本トモ所持セサル  
 ニ因リ特別ニ手数料ノ計算書ヲ作ル可キトキハ執達吏ハ  
 該計算書ニ其事件及ビ施行シタル職務ヲ簡短ニ掲ケ且手  
 數料ノ多寡ニ關係アル場合ニ於テハ職務ニ係ル物及ビ其  
 日時、場所ヲモ掲ケ之ニ署名捺印ス可シ  
 第一百十二條 執達吏ハ手数料及ビ立替金ノ豫納トシテ受取  
 リタル金額及ビ豫納金ノ殘額ノ返還ニ付テハ通常職務簿  
 中右事件ニ關スル部ニ之ヲ記入ス可シ  
 第一百十三條 執達吏ハ裁判所書記ヲ經タルト否トヲ問ハス

其委任ヲ受ケタル職務施行ノ爲メ受ク可キ手数料及ビ立  
 替金ニ付キ委任事件終了後直チニ其計算ヲ通知シ委任者  
 ヨリ之ヲ取立ツ可シ但債務者ニ對スル強制執行ニ付キ此  
 債務者ヨリ取立テス又ハ強制執行ノ際同時ニ取立テサル  
 トキニ限ルハ民事訴訟法第五百五十四條執達吏手数料規  
 則第二十條及ビ本則第五十一條ノ規定ニ依リテ  
 第一百十四條 執達吏ハ執達吏手数料規則第二十一條ノ規定  
 ニ從ヒ國庫ヨリノ支給ヲ受取ル爲メ過ル三ヶ月間ノ立替  
 金ヲ決算シ且職務簿ヲ區裁判所判事(監督判事ヲ包含ス)  
 ニ差出ス可シ  
 右決算ノ方法ハ左ノ例ニ從フ  
 第一三ヶ月分ノ職務簿中ニ各月ノ計算ヲ結ビ尙ホ其  
 三ヶ月ヲ併合シタル決算



第二、決算ノ日時及ビ執達吏ノ署名捺印  
 毎年一月ヨリ三月マテノ決算ハ四月中ニ差出シ四日月ヨリ  
 六月マテノ決算ハ七月中ニ差出シ七月ヨリ九月マテノ決  
 算ハ十月中ニ差出シ十月ヨリ十二月マテノ決算ハ翌年一  
 月中ニ差出ス可キモノトス  
 特別ノ場合ニ於テ決算ノ時事件未タ終了セサル爲メ立替  
 金ヲ計算スルコト能ハサルモノハ後期ノ第十ノ月ノ職務  
 簿ニ右事件ノ新番號ヲ附シ新舊兩簿ノ番號ヲ以テ前期ニ  
 關スル立替金ヲ後期ニ移記シタルコトヲ標記ス可シ  
 區裁判所判事ハ執達吏ノ職務簿ニ必要ト思量スル注意書  
 ヲ添附シ其支辨且其計算ヲ爲シ得ヘキ額ヲ確定スル爲メ  
 之ヲ地方裁判所長ニ差出ス可シ  
 其指覺マズル限ニ於テ  
 第百十五條受無資力者裁判所ヨリ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル

トキハ送達及ヒ執行行爲ヲ爲サシムル爲メ一時無報酬ニ  
 テ執達吏ノ附添ヲ求ムル權利ヲ有ス  
 民事訴訟法第九十  
 七條第三號  
 此訴訟上ノ救助ハ各審ニ於テ各別ニ之ヲ付  
 與シ第一審ニ於テハ強制執行ニ付テモ併セテ之ヲ付與ス  
 ルモノトス  
 民事訴訟法第九十四條第一項  
 訴訟上ノ救  
 助ヲ受ケタル者ニハ必スシモ執達吏ノ附添フコトヲ要セ  
 ス  
 訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ハ此救助ヲ受ケル際送達ニ付  
 テハ裁判所書記ニ申立テ一時無報酬ニテ送達ヲ爲サシム  
 可キコトヲ求メ裁判所書記ハ之ヲ執達吏ニ通達シ又執行  
 行爲ニ付テハ裁判所書記ヲ經テ若クハ直接ニ執達吏ニ對  
 シ委任ヲ爲スコトヲ得  
 該區裁判所管轄内ニ職務ヲ奉スル執達吏ニシテ右ノ委任  
 執達吏職務細則

ヲ受ク可キ義務アル者ハ事務分配(執達吏規則第七條)ニ依リ職務ヲ施行ス可キ土地ニ從ヒ裁判所書記ヲ經タル委任ニ應ス可キ執達吏ナリトス

執達吏ハ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ニ對シ其證明ノ爲メ裁判所ヨリ付與シタル裁判ノ提出ヲ求ムルコトヲ得然レトモ裁判所書記ヲ經タル委任又ハ辯護士ヨリ爲ス委任ニ付テハ右救助ヲ受ケタルコトノ證ノミヲ以テ足レリトス

訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ爲メ爲シタル行爲ノ手数料及ヒ立替金ヲ訴訟費用負擔ノ裁判ヲ受ケタル相手方ヨリ取立ツル方法ハ民事訴訟法第九十九條ノ規定ニ從ヒ其強制執行ノ費用ニ付テハ本則第五十一條ノ規定ニ從フ可シ訴訟費用負擔ノ裁判ヲ受ケタル相手方ヨリ辨濟シ能ハサ

ル執達吏ノ立替金ハ執達吏手数料規則第二十二條ノ規定ニ依リ國庫ヨリ之ヲ支辨ス此場合ニ於テハ執達吏ハ前條ノ規定ヲ準用シテ決算ヲ爲シ之ヲ區裁判所判事ニ差出ス可キモノトス

第一百十六條 執達吏ハ執達吏規則第十九條ノ規定ニ依リ一年間ニ收入スル手数料百八十圓ニ滿タサルヲ以テ國庫ヨリ其不足額ノ支給ヲ受ケントスルトキハ本則第百十四條ノ規定ヲ準用シテ決算ヲ爲シ區裁判所判事ニ差出ス可キモノトス

一本則第十七條ノ執行成績届ハ執行裁判所ニ届出ツルヲ本則トス(三二號決議)〇八號同條

一執達吏ハ委任者タル債權者ノ申出ニ因リ一時強制執行ヲ停止シタル上ハ更

解 疑

解 疑

一七〇

- 一 債權者ノ申出アルニ非ラサレハ執行行為ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(一〇八號回答)
- 一 既ニ仮差押ヲ爲シタル動産ニ對シ國稅徵收法ニヨリ差押ヲ爲シタル旨當該官廳ヨリ執達吏ニ通知シ來リタルトキハ執達吏ハ其旨ヲ差押債權者ニ通知スヘキモノトス(實例)
- 一 強制執行ノ委任取下ノ場合ニ於テ配當要求者アルトキハ細則第五十五條ニ依リ配當要求者ニ爲スヘキ強制執行完結通知費用ハ民事訴訟費用法第十六條ニ依リ同第十五條ヲ準用シ手數料規則第十三條ニ基キ立替金トシテ債權者ヨリ徵收スヘキモノトス(實例)
- 一 差押後債權者ニ於テ數回義務履行猶豫ヲ爲シ又ハ競賣不能ノ爲メ費用嵩ミ差押財産ノ見積額ヲ超過スルニ至リタルモ豫納追納ヲ爲サズ依然前轍ヲ履ム場合ハ執行ヲ停止ノ儘ニ置キ次ノ競賣期日ヲ定メサルヲ相當トス(實例)
- 一 民事訴訟ニ在リテハ執達吏ハ民事訴訟法第五百三十六條及ヒ同第五百三十七條ノ準用ニ依リ証人ヲ拘引スルカ爲メニ警察上ノ援助ヲ求ムルコトヲ得(東京控訴院決議)

◎執達吏用書式

左ノ書式ハ半枚十二行二十字詰又「」印ハ朱書以下之ニ做フ

書式甲第一號(民訴五四〇、五六六)

有体動産差押調書

府縣都市町村番「職」

債權者「某」

府縣都市町村番「職」

債務者「某」

請求金額

一金

訴訟費用

合計金

執達吏用書式

一七一

職年號

手數料及立替

一金

合計金

合指金

金立替

手廻件

御手廻

右金額ハ明治年月日(裁判所、控訴院)ノ判決(執行命令)及ヒ明治年月日ノ裁判所ノ訴訟費用確定決定ニ依リ債務者ノ辨濟スヘキモノトス

明治年月日送達アリタル右判決ノ執行正本ニ基ク(右命令ノ正本ニ基ク)債權者ノ委任ニ依リ「某所」ニ於テ債務者ニ(債務者ノ「某」ニ)出會ノ上任意辨濟ヲ爲スヘキ旨ヲ催告シタリ

債務者ハ(債務者ノ「某」ハ)「支拂ヲ爲スノ資力ナキ旨ヲ」陳述シタリ

依テ前記請求金額并ニ強制執行費用ノ辨濟ニ充ツル爲メ債務者ノ住居、店舗、倉庫、物置ヲ搜索シ別紙目錄ノ通り其財産ヲ差押ヘタリ

右差押物ハ悉皆之ヲ占有シ「某所」ニ貯藏シタリ(債權

者ノ承諾ニ依リ)(運搬人ニ差支タルニ依リ)封印ヲ爲シ標目ヲ附シ、公示書ヲ貼附シ、債務者ノ保管ニ任セタリ

差押物ノ占有ハ執達吏ニ移リタルヲ以テ債務者ハ之ヲ處分スヘカラズ若シ之ヲ處分シ又ハ封印、標目、公示書ヲ破毀スルトキハ刑罰ニ處セララルヘキ旨ヲ債務者ニ(債務者ノ「某」ニ)諭告シタリ

差押物ハ明治年月日午前(後)時「某所」ニ於テ之ヲ競賣ニ付スヘシ

明治年月日午前(後)時差押ニ着手シ同時之ヲ完結シタリ

口頭ヲ以テ(調書ノ謄本ヲ送達シテ)差押ヲ爲シタル旨ヲ債務者ニ通知シタリ